

2017年度 藤沢白門会の活動



第23回定期総会での凛々しい会長の挨拶（平成29年4月22日）



2年ぶりの開催となった地引網（平成29年8月19日）

2017年度 藤沢白門会の活動



藤沢白門会所属、諏訪間幸平さん（リングネーム：諏訪魔）による
遊行寺プロレス・チャリティーマッチの一幕（平成29年9月24日）



吉田茂像と広大な相模湾を背に（平成29年10月7日）

2017年度 藤沢白門会の活動



神奈川県合同白門会での、チアリーディング部 SPIRITS による華麗な舞
(平成 29 年 11 月 11 日)



2年越しに叶った箱根駅伝応援、往路3区を疾走するエース中山 (平成 30 年 1 月 2 日)

2017年度 藤沢白門会の活動



新しい年を祝う会員メンバーの明るい表情「新春のつどい」（平成30年1月27日）



「新春のつどい」にて、写真サークルによる展示会の準備風景（平成30年1月27日）

第 22 号 目次

グラビア 会長挨拶	『発想の転換で更なる前進を』 中央大学学員会藤沢白門会 会長	片岡久興	6
会員随想			
伊賀より伊勢への旅 父の出生地を訪ねて知る一族の絆		西島一光	11
日々雑感		澤田英樹	12
諏訪魔！地元藤沢・遊行寺に凱旋だぞ！オイッ！！		諏訪間幸平	14
白門会について想う事		相原妙美	16
グリーンライフ		鉢蠟博	18
藤沢白門会の行事活動			
第 23 回定期総会開催 ～箱根に散った夢～		川俣誠	21
湘南の地から明るくいこう ～平成 30 年新春のつどい～		井出豊	22
第 20 回地引綱大会		原輝雄	24
第 21 回 SUC 親睦交流会		岸本寛之	26
第 17 回神奈川県合同白門会盛會に開催 箱根駅伝沿道で応援出来る喜びを語る		吉原和義	28
第 26 回 ホームカミングデー 稀代のクリエイター 秋元 康氏が中央大学に帰ってきました		吉原和義	30
第 94 回箱根駅伝予選会について 予選会 3 位通過、2 年ぶりに箱根を疾走する		城崎芳彦	32
第 94 回箱根駅伝について 悔しさをバネに、来年のシード権確保を目指す		城崎芳彦	33
第十回若手懇親会ボウリング大会&パーティー開催		原輝雄	34
社会福祉活動委員会		端山幸雄	36
サークル同好会活動			
緑と歴史散歩サークル		澤田英樹	39
ゴルフサークル		川俣誠	42
囲碁サークル		杉森淳	46
写真サークル		高島良太郎	48
白門サロン会		林孝靖	50
テニスサークル		遠藤主計	51
旅行サークル		城崎芳彦	52
音楽鑑賞サークル		座間毅	54
釣りサークル		大沼敬正	60
レディース会		端山徳子	62
グラウンドゴルフ体験会		鉢蠟博	63
母校の近況			64
藤沢白門会組織図・新入会員・物故者			69
藤沢白門会讃歌 中央大学校歌 応援歌 惜別の歌			71
お願い			75

発想の転換で更なる前進を



藤沢白門会

会長 片岡 久興

昨年 10 月 14 日に行われた箱根駅伝の予選会に於いて母校中央大学は 3 位という好成績で箱根に 2 年振りで戻ることができました。その頃日本全国では衆議院議員の総選挙の真っ最中で、たまたま藤沢白門会の仲間が立候補しており、有志がボランティアで応援をしていました。当初は追い風でしたが、「排除」等の発言後は強い逆風となり、善戦空しく敗れました。

年が明け、2 年ぶりの駅伝応援に会員多数が参加し大いに盛り上がりました。しかし、往路は「まあまあ」でしたが、復路は惨憺たる成績でまた予選会からという結果で終わってしまいました。これから関係者、選手諸君の大いなる努力と奮起を期待いたします。

さて、この 1 年間の行事は幹事の努力と会員の協力によりまして順調に進めることができました。その中で、8 月の「地引網大会」は参加者も多く大盛況となりました。今まで以上に間口を広げまして、学会会の山本副会長や、練馬、杉並、中野の各平成会、神奈川県父母連絡会等に呼びかけ多数の方々にご参加を頂きました。この試みは今後もさらに拡げて行く予定です。

課題である次の世代へのスムーズなバトンタッチについては、中々スムーズには進んでおりませんが、これは必要なことなのでより積極的に取り組んでまいります。今後は中堅、若手、女性の方々に「会」の運営に積極的に参加していただくことをお願いする次第です。

次に、会員減については、色々と手は打ってきましたが今期も入会者よりも退会者が多いというのが現状です。これと「サークルの活性化」に

ついて従来と同様な方法ではなく別のやり方、意識を変えてつまりイメージチェンジを図ると共に発想の転換をすることで、現状を打破し今後の藤沢白門会の発展に結び付けていかなければならないと考えているところです。その為に私も全力で取り組んでまいる所存ですので、各位のご理解、ご支援並びにご協力をお願いする次第です。

地域貢献として平成 12 年度から各位のご寄付により「車椅子」を藤沢市社会福祉協議会に寄贈しております。今期は 2 台寄贈し合計 29 台となりました。今後ご協力のほどよろしくお願ひします。

10 周年（平成 17 年）からスタートした「長野県中信支部」との親睦交流については今後も末永く地道に進めてまいる所存ですので宜しくお願ひ致します。



今号のカットは18ページ掲載、会員随想「グリーンライフ」執筆の鉢蟻さんと、
48ページ掲載、写真サークルの皆様にご協力いただきました。

會員隨想

(掲載順不同)

伊賀より伊勢への旅

父の出生地を訪ねて知る一族の絆

昭和 26 年経済学部卒 西島一光

私は、大正 14 年 5 月生まれの満 92 歳です。足腰のシャンとしている今だと、長男と実家の寺の住職と同道、父の出生地の三重県上野市（現：伊賀市）中村を訪ねました。計画は住職が立案し、そのお蔭で伊勢神宮を 70 数年ぶりに参拝、鳥羽・青山高原の霧生に宿泊等、色々と初体験もあった旅でした。

10 月 25 日朝、小田原より新幹線・名古屋より JR 快速「みえ 3 号」で伊勢市に行き、伊勢神宮の外宮・内宮と参拝しました。伊勢神宮には昭和 17 年 11 月、私が海軍機関学校入校前、伊賀市中村の父の実家に挨拶に行く際に参拝したのが最初で、次いで機関学校卒業前の昭和 19 年 9 月下旬の乗艦実習後の参拝が二回目でした。当時のことが脳裏に浮かび感無量でした。内宮の宇治橋から右側通行で合理的であること、両宮とも別宮があることに気づきました。二見浦の二つの島を結ぶ注連縄が台風により切れていたのは残念でした。



台風被害に遭った夫婦岩

翌 10 月 26 日（木）からは、鳥羽からレンタカーで行動しました。先ず伊勢自動車道で久居まで、それから伊賀街道を西進、父の実家まで 1 時間半と便利になったのに驚きました。実家の仏前と菩提寺の墓に線香を手向け、市内の親戚宅に行くも不在、携帯電話すると、一族 8 名が市内の「田楽屋」で一席設けているとのこと、その絆の強さをひしひしとを感じる次第でした。吾々 3 名が加わり、一族の絆が一層強くなった一刻でした。

会合後、藤堂高虎築城の上野城・松尾芭蕉の俳聖殿を見学後、伊賀神戸より県道 29 号線を南進、よく手入れされた一本道の杉林を抜け、「メナード青山ホテル」に到着。青山高原の霧生の名にピッタリの風景と、ここも伊賀市であることに楽しい一夜を過ごすことができた。



松尾芭蕉の俳聖殿

翌 27 日（金）は、国道 165 号線、県道 28 号線を久居に行き、伊勢自動車道を南進して伊勢市に行き、レンタカーを返し、伊勢市唯一の日蓮宗寺院常明寺の住職に「日蓮大聖人三大誓原発祥の霊場」を案内してもらい、その親切に感謝した。

この度は、一族の絆の強さを改めて感じる事ができた有意義な旅であったことを痛感させられたことに感謝しています。

日々雑感

昭和 49 年法学部卒 澤田英樹

「周り 20 余里そてつときびの徳之島かよ冬知らず」（徳之島小唄 2 番から）。平成 29 年の 6 月、久しぶりに生まれ故郷の鹿児島県徳之島へ帰った。今年は父の 33 回忌に当たるため、日頃の不肖の詫びと墓参りを兼ねて夫婦で帰省したもので、6 月ともなると徳之島は蒸し暑く、冷房なしでは室内でも汗をかくような状態。生家は人に貸しているため地元のホテルに泊まりレンタカーで墓参りを済ませ、特にお世話になった親戚宅を挨拶に回り、その後ゆっくりと島を半周した。私がいた時代と比べると県道はきれいに整備され、コンビニも進出している。農協の大型スーパーも出店しており、農道もすっかり整備が進んでいる。かつて 120 歳で世界一の長寿と言われた泉重千代翁の住居（記念館となっている）を見学したが、あんな山深いところに良く住んでいたものだというのが実感。私は家のすぐ前が海辺という環境で生まれ育ったせいか余計にそんな感じがする。島で一番の景勝地であり戦艦大和の記念碑がある犬田布岬へ行き写真を撮ったり、岬の駐車場の一角にある喫茶店で店主自ら栽培しているというコーヒーをいただいたりした。亜熱帯地域であるとはいえ、コーヒー栽培は難しく試行錯誤を繰り返しており、量産化はまだまだとのこと。出身の県立徳之島高校の校内にも入ってみたが制服は一新され、違う学校に来たような気分になった。最近空手は全国大会の常連校であり野球もかなり強くなっているが、もう少し切磋琢磨して学力を伸ばして欲しいとは自分を柵に上げての老先輩の繰り言。2 泊 3 日の旅はあっという間に終了し、また藤沢での普段の日常に戻った。



私の父は66歳で肺がんで死去しており、私は父の年まで生きることを当面の目標としてきたが、その年齢を今年平成29年に超えてしまった。次はどうするか。私は28歳の時、カトリックの洗礼を受けキリスト教徒となったが、仕事や地元の草野球の世話などでこれまで教会の日曜日のミサにはあまり参列しないままに来てしまった。ところが5年前の平成24年(2012年)10月1日の早朝、身体の痙攣とともに意識を失い救急搬送され、それから3年間神経内科での治療を繰り返すようになった。幸い痙攣発作は半年で納まって、その後の発症は一度もなく、CTやMRI検査を何度繰り返しても原因は不明のまま、通院と服薬による治療を続け、平成27年(2015年)8月で治療は終了した。この期間感じたことは自分の人生の終活をどうしようかということだった。それには神のもとに立ち返るしかないと思い、それからは野球の世話は他の人に任せ、教会のミサには必ず出ることにしている。人生の終わりは自分で決められるものではなく神の御手のままにということになるが、これまでの人生で神からいただいてきた恵みを生涯をかけて神に返していくのが自分の務めと思い、教会のいろいろな活動にも積極的に参加してきた。カトリックは個人の信仰を深めることはもちろん大事だが、信徒が一緒になって「民=共同体」として信仰を深め生きていくことが求められる。その活動には災害や戦争の被害者支援など自分の身の周りを越えた世界的な視点も必要となってくる。

とは言え、健康と体力がなければそうした活動への参加も難しく、現在はスポーツジムで体力作りに励み、家庭菜園での畑作業と週1~2回の会社勤め、週末の白門会行事への参加に心がけている。藤沢白門会は、先輩・後輩、男女の区別を超え、親しく交流できるところが良い。この良きところを保ちながらいろいろと工夫し、組織を維持できればこれに越したことはない。近年藤沢と県内の他の白門会や慶應や早稲田などの同窓会との連携がとれ、交流が深まっているのも望ましい姿である。組織の高齢化とこれに伴う活動の縮小化をこうした動きで打破できれば幸いかなと思う。

白門会の皆さんにはあまり参考にならない自分史みたいな文章になってしまった。
アメリカの神学者ラインホルド・ニーバーの言葉を援用し文章を閉じる。

神よ

変えられないものを受け入れる心の静けさと
変えられるものを変える勇気と
その両者を見分ける英知をお与えください



諏訪魔！地元藤沢・遊行寺に凱旋だぞ！

オイッ！！^{*1}

平成 12 年経済学部卒 諏訪問幸平

(謎の覆面インタビュアー：以下「謎MC」^{*2}) 去年は雨で中止になってしまいましたが、今年は天候にも恵まれ、大盛り上がりの中での「藤沢市民まつり・遊行寺プロレス」開催、お疲れ様でした。

(諏訪魔選手：以下「諏訪魔」) ありがとうございます。会場を見回すと、白門会の先輩方や地元の知合いばかりだし、奥には遊行寺境内があって、母校の藤嶺藤沢高校が見えるし、更にパートナーの江の島マンも頑張ってくれて、俺自身、凄い興奮したし、凄いパワーをもらって、戦うことが出来ました。



タッグマッチの頼もしい地元パートナー・江の島マン

(謎MC) なぜ、遊行寺の境内にリングを組んで、プロレスをすることになったのですか？

(諏訪魔) 藤沢市民まつりが、2013年から遊行寺エリアを会場として使い始め、そのこけら落としとして、藤嶺藤沢高校出身でもある俺に声がかかって、遊行寺プロレスを開催。以来、遊行寺エリアの名物イベントとなってきました。



王道トーナメントトロフィーと共に、鈴木市長と一枚

(謎MC) 諏訪魔選手は藤沢市出身で、藤嶺藤沢高校を卒業してから、中央大学経済学部に進学。大学入学から本格的にレスリングに取り組んで、その後、全日本プロレスに入団。元文部科学大臣の馳浩衆議院議員相手に、プロレスラーデビューをされたのですよね。

(諏訪魔) リングに上がったら、対戦相手が馳さんだったのには、驚かされたよ(笑)

中央大学時にレスリングを初めて、ずっとレスリングに没頭。気が付けば、

プロレスラーになって、こうやって地元の藤沢市で、遊行寺や他の会場でもプロレスが出来て、非常に嬉しく思っています。

(謎 MC) 9月は王道トーナメントで、初の2連覇を果たし、遊行寺プロレスの時に、大きな優勝トロフィーを持って来て頂き、更に、10月は、アキレス腱断裂の怪我で返上して以来、1年8か月ぶりに3冠ヘビー級を奪還しましたね。おめでとうございます。



(諏訪魔) 皆さんの応援のお陰で、厳しい戦いでしたが、両方とも勝つことが出来ました。ありがとうございます。

諏訪魔必殺のフィニッシュ・ホールド！
超高角度パワーボム「ラストライド」炸裂！！

(謎 MC) これからの目標を教えてください。

(諏訪魔) レスラーとして、ある意味、一番、脂がのってきた感じがするので、これからも暴れまくっていきたいと思います！中央大学藤沢白門会の先輩方、これからも応援を宜しく頼むぞ！

オイッ！！



*1…諏訪魔選手が気合を入れるおなじみの掛け声。興行開始の際にはファンも一体化してこの「オイッ！！」で本日の試合がスタートする。

*2…諏訪魔選手のインタビューには欠かせない、謎のマスクマン。自ら「出身大学不詳」と語っているが、我ら藤沢白門会にとっても深い関わりのある人物のようである。

白門会について思う事

平成 17 年法学部卒 相原妙美

「私の趣味ってなんだっけ？」

藤沢白門会、入会申込のハガキを手にとりながら、思わずそうつぶやいていました。

それは今から 2 年程前のある日、入会を決めた時の事です。

そもそも私が中央大学を卒業したのはさらにもっと前、平成 17 年の事。

大学を卒業後、栄養士の専門学校に通い、企業に就職し、結婚し子供が生まれ…仕事に家事に育児にと、定期的に届けてもらう『学員時報』へ目を通す事もままならない、慌ただしい日々を送っていました。

それでも私は、あっという間に過ぎていく日々満足していました。忙しさはイコール充実なのだと。そういった気持ちがあるからです。

ただ、ふと久しぶりに『趣味』を考えると、なかなか思いつかない。その事実には驚きました。

最終的に趣味の欄に記入したワインだけは今もよく飲んでいるけれど、昔から好きだった映画鑑賞にも音楽鑑賞にも、最近はあまり時間がとれていない。

本当は大好きな山登りにも、もう何年も行っていない。ぶらぶら街を歩くのも好きなのに、住み始めて 7 年のこの藤沢をまだよく知らない。

せっかく海も近いのに。海、見ていないなど、自分の生活を振り返りながら考えました。

かくして、大した趣味も書けないまま、藤沢白門会に入会した私。

入会后、開いて頂いた歓迎会には少々緊張しながら足を運びました。

迎えてくださったのは、恐縮してしまうような肩書の方々ばかり。

ですが、未熟者の私にも、とても温かく気さくに接して下さり、楽しい時間を過ごせました。

なかなか都合がつかず、多くの行事に参加することはできていませんが、総会、レディース会、地引網など、参加する毎に、お知り合いになる方々が増えていく。

それはとても嬉しく思っている事です。





私は結婚後、藤沢に住み始めましたが、今も職場や昔ながらの友人は県外にあり、ここ藤沢での生活に、どこか寂しい気持ちがありました。

それが、藤沢白門会に入会してから、通勤途中や、休日に街を歩いていて、同じ白門会の方とぼったり会うという出来事が起こるようになったのでした。

そんな“ぼったり”が、実は私にはとても楽しい事なのです。

同じ地域に住む面識のある方々とすれ違う。ただそれだけの些細な触れ合いでも、心のどこかにあった寂しさが薄れていくのを感じるのです。

以前参加させて頂いたレディース会で、神奈川は、海があり山もあり、栄えた街もある。とても素晴らしい所だという話題になりました。

本当に、その通りだと思っています。

私は以前よりずっと神奈川が、藤沢が、大好きになりました。

そんな素晴らしい地で、同じ大学を卒業したという共通点を持つ方々と親しくなれる、繋がりを持てる。しかも、繋がった方々はとても魅力的。仕事や趣味のお話は引き込まれるものばかり。

これはなんて素敵な事だろうと思っています。

ただ、たくさんの行事に参加して、もっと皆さんとの繋がりをもちたいという気持ちは大きいものの、結局それを許さない“慌ただしい日々”は続いています。なかなか行事へ出席できていない事を残念に思います。それでも、いつも皆さんがそうしてくれるように、いつかは自分が、新しく入会した会員の方に楽しんでもらえるような場づくりに貢献したいという気持ちは持っています。

私の趣味は……ワインを楽しく飲みたい。海に見える道を自転車で走りたい。湘南の映画ロケ地をまわりたい。まだ“～したい”の状態ではありますが。約2年の間に“何だっけ？”ではなくなりました。

“～したい”が、実現出来ている頃、きっともっと藤沢白門会の皆さんと共有する時間も増えているのかなと思っています。

私にとって藤沢白門会は、この藤沢での生活に温かさと彩りを持たせてくれた。そんな存在です。

グリーンライフ

昭和 43 年商学部卒 鉢蠟 博

藤沢北西部の遠藤に残る、荒れた山林の手入れを初めて 7 年がたちました。

そこは藤沢市の三大谷戸の一つで深い谷間の一角にあります。

始めたきっかけは高校時代のクラス仲間から誘われて、緑保全の NPO に入りました。



努力の甲斐あって、見事な花を咲かせたヤマユリ

メンバーは 60 代後半から 70 代の男たちが中心で週に一度集まり、枯れた竹や雑木の伐採から始めました。

慣れない山仕事でしたが思いのほか楽しく、孟宗竹や杉を切った後に草を刈り整地をしてヤマツツジや山吹などの灌木を植えたり、よそで培養していた山野草を植えていきました。

地主さんたちの理解を得ながら 7548㎡をお借りし、4 年をかけて山野草の自然庭園ができました。

「藤沢えびね・やまゆり園」と名付け、今年で開園 3 年目になりました。

なかなか人気があるようで、4 か月の開園期間で 4000 人ほどが来てくれました。

起伏にとんだ地形と太い孟宗竹やクヌギ、エノキなどの樹間散歩に種々の山野草が目を楽しませてくれます。ときどきウグイスや野鳥の声が聞こえます。

今年は 1000㎡ほど追加で隣地をかりて、園内を拡張整備する予定です。

9 月から作業に入り杉・竹の伐採をし、園路を追加し境界の垣根を作っています。

土方作業から植木剪定まで忙しく週 2 日作業になりました。

園内整備が終わりますとそれから植栽をします。

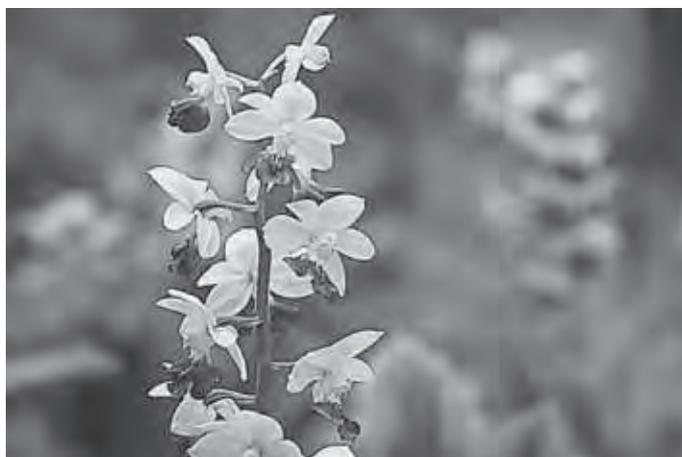
園内にはエビネ、ヤマユリ、ヤマアジサイなど約 130 種類の山野草があります。

新たにニッコイキスゲやヤマユリなど 20 種類を植え自然庭園らしさを目指しています。

その仲間たちは元銀行員や電気工事士や公務員などで素人です。

公的援助はありませんので手弁当ですが楽しく活動しています。

私としては体はきついのですが心が豊かになり生きがいになりつつあります。



準絶滅危惧種の貴重なエビネが慎ましくも咲き誇る

藤沢白門会の行事活動

第23回定期総会開催

～箱根に散った夢～

平成29年4月22日(土)藤沢市民会館第2展示集会ホールにて第23回定期総会を開催した。

第1部の医療講演会では、「湘南藤沢徳洲会病院 内分泌・糖尿病内科医長 三澤晴雄先生」から「糖尿病」についてお話頂き、37名の出席者は熱心に耳を傾けた。「糖尿病」に関する一般的な質問から自分自身の相談など、質疑応答も活発だった。



第2部、議案審議の様子

第2部の定期総会には52名が出席した。冒頭1年間の物故者に黙祷を捧げた。次に校歌斉唱、片岡会長あいさつと続き、会長が議長となって議案の審議に移った。「平成28年度活動状況報告」、「平成28年度収支決算及び監査報告」、「平成29年度行事計画(案)」、「平成29年度収支予算(案)」、「役員異動(案)」の各議案が説明、提案され、質疑応答のあとすべて承認された。

第3部の懇親会には52名が出席した。片岡会長の冒頭あいさつでは、予選会敗退により箱根駅伝の連続出場記録が87回で途絶えたことに対する悔しさが語られ、会場には共感の輪が広がった。藤沢白門会の連帯感と大学との連携を一番強く感じられる箱根駅伝だけに、喪失感が漂った。これを受けてあいさつに立った高嶋学員会副会長からは、予算の増額や有力選手の獲得など、陸上部のテコ入れを早急に行い、必ずや皆さんの期待に応えたいとの力強い決意が表明され、会員からの拍手喝さいを浴びた。



新役員の紹介



小山副会長による応援振付
ただ今若手入門者募集中です

続いて藤沢白門会讃歌斉唱のあと、鉢蟬顧問からの乾杯の発声を契機に、一気に宴会のボルテージがあがり、会場のそこそこで会員同士や県内他白門会の来賓との懇親を深めるシーンが広がった。会の半ばでは、初参加者や新役員の紹介も行われ、歓迎の拍手で迎えられた。

最後に全員で応援歌を斉唱し、遠藤副会長の締め言葉で閉会となった。

(副会長 川俣 誠)

湘南の地から明るくいこう ～平成30年新春のつどい～

平成30年1月27日(土)午後2時より、藤沢市民会館第2展示ホールにおいて、中央大学藤沢白門会の平成30年新春のつどいが約100名の参加のもと開催されました。

総合司会を務める川俣誠事務局長の開会の言葉に続き、藤沢白門会讃歌斉唱で幕を開けました。



会長挨拶、沢山の想いが語られました

最初に片岡久興会長の挨拶として、今季最大の寒波襲来の中での御来賓、会員の出席への感謝の意が述べられた後、箱根駅伝についての思いが述べられました。2年ぶりの出場を喜び、元日の穏やかな天候のもと、初詣での箱根駅伝の必勝祈願をしたこと、初日の走りはそれなりの健闘を評価する声もあるが、個人的には少し不満があり、2日目については最悪の結果となったと感じた等、母校の復活に対する期待を込めた思いが吐露されました。同時に来賓としていらしていただいた早稲田大学藤沢稲門会、慶應義塾大学藤沢三田会の

皆様に向け、早稲田大学の3位という素晴らしい成績と慶應義塾大学の盛大な応援に対する敬意が述べられました。

今年度の本会の活動について、行事やサークルへの参加者の減少は気になるところであるが、8月に開催した地引き綱大会は、東京の支部の若手会と地元の父母会の皆様のご参加もいただき、盛大に開催できたことが報告されました。

会の今後について、現状では入会者より退会者が多くなっており、会員数の減少傾向にあることから、問題点の分析を進め、運営の方法や発想の転換に取り組んでいきたいので、皆様のご協力をお願いが述べられました。



松原学会副会長による御挨拶

続いて御来賓の松原誠中央大学学会副会長より御挨拶をいただきました。

最初に箱根駅伝のコースでもある、ひときわ思い入れの強い県下白門会から御出席いただいた皆様に向け、体育会支部部会長としてもお詫びしたい旨のお言葉があり、まだまだ実力は伴っておらず、再建途中であること、来年度は良い選手が3名ほど入るので、より良い結果が期待できるので、応援をよろしくお願ひしたいとの力強い御報告がありました。また体育会全体の強化について、環境の不備による良い

選手の獲得に後れをとっている現状を改善していくことの必要性や、推薦入学への資金面等の強化、そのための大学の努力とOBのバックアップが不可欠であるとのお話がありました。重ねて推薦

入学の人数は学部数により決まることでもあり、そのためにも中長期計画での学部数の増設を進めていきたいとの将来展望が語られました。

そして久野修慈学会会長のメッセージ、「明るくいこう」というお言葉でご挨拶を締めくくられました。

続いて石原昭憲相談役の音頭での乾杯を行いました。石原相談役からは御自身の通院の体験談が披露されました。担当の看護師さんから、お正月はいかがでしたかと聞かれた相談役が、初詣のあと箱根駅伝の応援をしましたと答えたところ、大学名を聞かれ、「中央」と答えると、「中央学院」ですか？「中央大学」ですか？と聞かれ、「中央」だけでは通用しない現状を感じた悲しい体験を吐露し、復活を祈念する乾杯となりました。



乾杯の音頭を取る石原相談役

次に鈴木恒夫藤沢市長をお迎えし、車椅子贈呈が行われました。贈呈に先立ち片岡久興会長より、本年は2台の贈呈ができ、今回で29台目となることが説明されました。目録贈呈の後、鈴木市長より御挨拶をいただきました。車椅子の寄付についての謝意に続き、年頭に開所した新市庁舎の設計にあたっては、障がい者団体等と協議し、バリアフリーに最大の配慮をしたこと、2020年に向け、江の島のバリアフリー化に注力していきたいとの方針を述べられました。

続く懇談中、御来賓の横浜白門会、川崎白門会、平塚白門会、茅ヶ崎白門会、逗葉白門会、小田原白門会、大和白門会の皆様、SUC親睦会の慶応大学藤沢三田会、早稲田大学藤沢稲門会の皆様が紹介されました。続けて中央大学理事長、総長・学長、学会会長からの祝電が読み上げられました。

懇談に花を添えたのは仲里悦子トリオの皆さん。開会前のウエルカム演奏までしていただいた上、ステージでは、陽気なスタンダードナンバーの数々と、会場と一体化したパフォーマンスで大いに盛り上げていただきました。



仲里悦子トリオの皆様と
シャンソンを披露した鉢舘顧問

楽しい時間もあと少しというところで、原輝雄若手委員長の司会によるお楽しみ抽選会。今年も会員からの豪華な景品がそろい、盛り上がるひとときとなりました。

最後に鉢舘博顧問のリードによる校歌・応援歌を斉唱し、参加された皆様に感謝と、いっそうのご指導・ご鞭撻をお願いする小山勝男副会長の辞により閉会しました。出口では恒例の車椅子募金が行われ、多くの御芳志をいただきました。

最後に近年にない寒さの中、本年もこのように新春のつどいを盛大に開催できましたこと、改めて御来賓、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

(親睦行事委員会 井出 豊)

|| 第20回地引網大会 ||



さて、始めますよ～！まずは注意事項から

されていた網上げを、その後の天気予報を考慮して、若干前倒しして行いました。今回参加された方々の中には地引網を初めて経験された方もいらっしゃり、どんな魚が採れるのか、ワクワクしながら皆で網を曳いていました。最後の部分が近づくとつれ、鳥が集まり、大きな成果が期待されましたが、結果の方は大漁とはいきませんでした。それでも、子供たちが採れた魚を触ったり、バケツの中をのぞき込んだりと、目を輝かせていました。ちなみに、網元のお気遣いで、参加された皆さんにお持ち帰りいただく、お土産をいただきました。

また、地引網以外にも、毎年恒例の子供たちを対象とした宝探しゲームやスイカ割りなども行いました。とりわけ、スイカ割りには多くの子供たちが参加し、見事スイカを割れた子もいれば、残念ながらうまく当たらなかった子もいましたが、きっと夏休みの良い思い出になったのではないかと思います。ちなみに、スイカは割れても砂だらけにならないように、今年からビニール袋をかぶせ、割った後も美味しくいただくことができました。

また、バーベキューの方も、てんぷらや焼きそばなどが振る舞われるとともに、多くの皆様から各種差し入れもいただき、海を眺めながら、楽しい宴を催すことができました。特に、毎年恒例の光友会のご協力によるロールパンにウインナーを挟むウインナーロールはパンの味が素晴らしく、今年も大変な好評を博していました。また来年も美味しいロールパンが食べられることを待ち望みたいと思います。

8月19日に第20回目となる地引網大会が鶴沼海岸の堀川網で開催されました。去年は残念ながら悪天候で中止となってしまいましたが、今年は天候にも恵まれ、盛大に開催することができました。参加者も中央大学学会本部副会長の山本卓様をはじめ、学会各支部や藤沢三田会、藤沢稲門会、社会福祉法人光友会の皆様など、多くのご来賓の方々にご参加いただき、総勢で129名の参加者となりました。

会にご来賓のご紹介等の後、会長の乾杯でスタートし、当初11時に予定



さあ、網上げです。魚が大量に入っているかな？

楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後は小山副会長と横浜支部の菊田様のエールでしめていただき、お開きとなりました。先輩方には及びませんが、いずれ若手委員会の中でも跡を継いでエールができる人材の発掘が期待されます。

若手委員会の会長に就任し、初めての大きな仕事となった今回の地引網大会でしたが、ご参加いただいた皆様のご協力により、無事盛会のうちに終えることができ、ホッと致しました。とりわけ、裏方で支えていただいた若手委員会の皆様には心から感謝を申し上げたいと思います。来年も多くの方々にご参加いただき、楽しいひと時を過ごしていただけるよう、若手委員会の皆で力を合わせて頑張りたいと思います。

(若手委員長 原 輝雄)



恒例のスイカ割り大会！



|| 第21回SUC親睦交流会 ||

1. 川井陽一先生のご講演

「人間が他の人間に贈ることのできる最大の贈り物とは何でしょうか」

これは、下記の第21回SUC親睦交流会 第1部記念講演会の冒頭において、川井陽一先生が紹介されたある哲学者からの問いかけです（今道友信氏の著書「人生の贈り物 - 四つの物語」より）。

この親睦交流会には、早稲田大学・藤沢稲門会を幹事校として加盟校16校が参加し、私たち藤沢白門会からも片岡会長をはじめ9名が出席、総勢120余名が川井先生の言葉に耳を傾けていました。

湘南高校の校長と湘南学園の学園長を歴任された川井先生には、2校の「湘南」を経験されたからこそ語れる「明日の教育への展望」を、いろいろな切り口でお話しいただきました。いずれのお話も、川井先生の誠実なお人柄と教育への熱意が溢れていました。

ご講演の中で特に印象に残ったのが、川井先生が普段よく引用されているとおっしゃっていた次の言葉です。

“Always do what you are afraid to do!”

ラルフ・ワルド・エマーソン氏の格言の1つで、川井先生はこれに「最も困難な道に挑戦せよ」という日本語訳を充てて、生徒のみなさんに紹介されているそうです。きっと、その言葉に多くの生徒さんが影響を受けたと思いますが、そのお1人が宮台康平さんです。湘南高校、東京大学（現役合格）と野球部で活躍し、平成29年10月には日本ハムファイターズからドラフト7位の指名を受けてプロ野球入りが期待されています（執筆時現在）。極めて高いレベルでの文武両道を追求された宮台さんは、まさに「最も困難な道に挑戦すること」を体現された方です。

ここで少し話がわき道にそれますが、SUC親睦交流会の1週間後、我ら中央大学の駅伝チームが箱根駅伝予選会の激戦を勝ち抜き、3位（総合タイム10:04:03）という好成績で本戦出場を決めました！本戦での上位入賞は、シード校に比べれば困難にも思われますが、ぜひ来年のお正月には、「最も困難な道に挑戦」し、優勝を飾っていただきたいと思っています。

2. 親睦交流会

第2部の親睦交流会では、幹事校である早稲田大学藤沢稲門会の足立勲一郎会長のご挨拶、来賓の鈴木恒夫藤沢市長のご挨拶と続き、昨年の幹事校でありました湘南立教会の清水誠会長のご乾杯のご発声で宴がスタートしました。

催物は、平成流し組合・パリなかやまさんによる昭和情緒あふれる流しでした。各テーブルを回りながら、みなさんからのリクエストを受けて歌を披露されたり、ときには、参加者が流しの伴奏で歌ったりとみんな一緒になってかなりの盛り上がりを見せました。



川井陽一先生の講演風景

その後、片岡会長を筆頭に、参加加盟大学から一言ずつご挨拶をいただいたのち、来年の幹事校である日本大学校友会湘南桜門会の佐々木透会長が次回開催に向けた意気込みを述べられて、盛会のうちに散会となりました。

3. さいごに

さて、冒頭の問いかけに対する回答は何だったでしょうか。

川井先生が、生徒さんたちに同様の問いかけをすると、「愛情!」とか「優しさ!」といったいろいろな回答が出てくるそうです。川井先生がご紹介された先の今道氏の著書には、フランスの劇作家・哲学者ガブリエル・マルセルから「他の人間に贈ることのできる最大の贈り物は、『よい思い出』です。どれほど立派なものでも、品物は壊れたり、色あせたりしますが、よい思い出は一生変わることがありません。」と言われたというエピソードが書かれているそうです。

私は、今回がSUC初参加でした。他の15大学の方々と同じテーブルを囲んで一献傾けながら交流し親睦をはかるといふ新鮮な体験は、まさに「よい思い出」となりました。そして今、この会報原稿執筆に四苦八苦しておりますが、これも会報が発行されるころには、これもまた「よい思い出」となっていることでしょう。そう信じて筆を擱くことといたします。

第21回SUC（湘南ユニバーシティクラブ）親睦交流会

日時：平成29年10月7日（土）18:00～21:00

場所：藤沢市民会館

内容：第1部 記念講演会 学校法人湘南学園 学園長 川井陽一氏

演題『二つの「湘南」から考える - 明日の教育への展望 -』

第2部 親睦交流会

参加：加盟校16校 総勢120余名（うち、藤沢白門会参加者9名）

（事務局次長 岸本寛之）



挨拶に立つ片岡会長



盛会の内にお開きに

第 17 回神奈川県合同白門会盛會に開催

箱根駅伝沿道で応援出来る喜びを語る

藤沢白門会から 16 名参加

第 17 回を迎えた神奈川県合同白門会が、平成 29 年 11 月 11 日（土）小田急ホテルセンチュリー相模大野に於いて開催されました。相模原白門会が当番幹事で神奈川県内の八地域支部・白門会等で 110 余名の方が参加され、学会本部から黒田副会長が藤沢白門会からは、16 名が参加しました。

第一部 「フランス革命と文学」

革命の理想と現実に文学者はどのように対峙してきたか

講師 中央大学文学部 教授 小野 潮

フランス革命は、フランス史上最大の事件であり、また世界史的な大事件でもある。ヨーロッパでも屈指の伝統を誇るブルボン王家がこの革命によって打ち倒され、あろうことか絶対王政の牙城であったブルボン家のルイ十六世がギロチンで斬首される。またこの革命はイギリスの清教徒革命、名誉革命、アメリカの独立革命を引き継ぎ、市民社会を成立させたブルジョア革命の典型ともされる。

フランス革命と文学の関係について 3 つの側面

第一は、実際にフランス革命に遭遇した文学者たちが、この未曾有の事件にたいしてどのような反応を示したか。

第二は、フランス革命期に後代に残る傑作とされる作品があまり生まれていない理由を考える。

第三は、フランス革命期に生きた作家たちに限定されず、フランス革命後の作家たちにとってフランス革命がどのような意味を持ったか、あるいはどのような問いかけを行ったかについて考える。

概ね一時間半熱心に講義されました。



小野教授による講義

第二部 懇親会

懇親会は、当番幹事の相模原白門会佐々木会長の歓迎の挨拶で始まりました。続いて来賓としてご出席頂いた、黒田学員会副会長から挨拶があり、箱根駅伝を強くする会の朝倉事務局長からも挨拶がありました。

横浜白門会小田原会長の乾杯の音頭で歓談が始まり、チアリーダーの素晴らしい演舞がありました。川崎白門会から小田原白門会まで各白門会のメンバーが壇上に上がり、箱根駅伝で母校を応援出来る喜び等挨拶がありました。

あちらこちらで和やかな歓談の輪が出来、楽しい時間があっという間に過ぎました。

惜別の歌を全員で斉唱し、相模原白門会樋口副会長の閉会の辞で盛会裏にお開きとなりました。

(副会長 吉原和義)



チアの演舞に会場のフラッシュが途切れる間がありませんでした



第26回 ホームカミングデー

稀代のクリエイター 秋元 康氏が
中央大学に帰ってきました

平成29年10月22日(日)第26回ホームカミングデーが、中央大学多摩キャンパスで開催されました。残念ながら台風21号の影響により、藤沢白門会から6名が参加予定でした第2回白門駅伝大会が中止になる等、屋外で予定されていた、すべてのイベントが中止となりました。

雨が強く降る中各地から多くの方が訪れ、藤沢白門会からは10名が参加しました。

10時より9号館クレセントホールにて式典と音楽の祭典が行われました。

11時半よりすしざんまいさんのご協力で寿司4貫(大トロ・中トロ・赤身等)を500円で提供して頂き参加者一同美味しいお寿司を堪能しました。大好評で長蛇の列でした。



荒天のなか式場に向かう参加者
(写真提供：中央大学広報室)

イベントの一例

秋元 康氏講演会 ～人生とは何かを考えた～

中央大学附属高等学校卒業後、1977年文学部に入学するも、高校時代から始めていた放送作家の本格化もあり1982年退学。「ザ・ベストテン」など数々の番組構成を手掛ける。83年以降、作詞家として、美空ひばり「川のながれのように」をはじめ、AKB48「恋するフォーチュンクッキー」や「365日の紙飛行機」など数多くのヒット曲を生む。TV番組の企画構成、CMやゲームの企画、マンガの原作、新聞・雑誌の連載など多岐にわたり活躍中。国民的アイドル「AKBグループ」と「坂道シリーズ」の総合プロデューサーも務める。

高校から大学までの学生生活、「川のながれのように」の誕生秘話、一行でもいいから日記を書く等人生とは何かについて熱く語られました。

秋元康氏の熱い母校愛を感じました。

藤原駅伝監督応援企画第2弾 ～箱根駅伝 わが青春～

6連覇の黄金時代を築いた留野さん、32年ぶりに優勝した第72回大会メンバーの榎木さん、藤原監督とともに闘った同期の池上さん等、心を一つに箱根を駆け抜けた選手が学生時代の思い出や後進に託す思いを熱く語りました。

はくもん寄席

今年も、中央大学を卒業した落語家柳家小団治師匠・桂やまと師匠と落語研究会の方による「はくもん寄席」が開催されました。

似顔絵コーナー

大変好評で藤沢から参加された方も一名似顔絵を書いて頂きました。

今年は、台風の影響を受けて、屋外イベントは、すべて中止になりましたが充実した一日を多摩キャンパスで過ごしました。

初めて訪れた方は、学生時代通った駿河台と比べて広大なキャンパスに驚いていました。

参加された事のない方は、是非来年足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

(副会長 吉原和義)



昼食をとる藤沢白門会メンバー
(写真提供：中央大学広報室)

第94回箱根駅伝予選会について

予選会3位通過、2年ぶりに箱根を疾走する

昨年は10位の日本大学に44秒差で11位に終わり、連続出場が87回で止まり屈辱の1年を過ごしました。

今年は4年生3名、3年生4名、2年生2名、1年生3名の合計12名の選手で20kmに臨み、予選会通過を8位以内に目標と藤原監督の談話有り、大いに期待しておりました。特に昨年1年生ながら主将に舟津選手が抜擢され、やる気満々で今年のインカレの1,500mでは優勝しました。

立川国営記念公園隣の陸上自衛隊基地を9時35分に49校が一斉スタートし、5kmごとに上位10位の合計が発表され、中大も上位集団に3人、中位集団に3名、2名と固まっており、最終的に1位から6位まで外国選手が入り、7番目に帝京大の畔上選手、8位に我が母校中央大の中山選手(3年)、14位に主将舟津選手、17位に堀尾選手(3年)が入り、3名共に59分台で、4年生の竹内選手と江連選手が二つの集団でペースメーカーと務め、上位10名が1時間1分30秒以内でゴールしました。来年1月2日3日の本選に出場出来る期待が高まっている中、結果の発表があり、第1位帝京大、第2位大東大、第3位に中央大とアナウンスされると、OB、父兄と幟の旗の一番多い我が母校から大歓声が上がり、名門校復活したと至る所で話が聞こえました。

結果的に第10位には中央大OBの横溝総監督、大志田監督の率いる東京国際大が入り、昨年10位の日大はエースのワンプイ選手が腹痛で終盤失速し、最終的に11位で、古豪明大もエース欠場と主力選手の棄権で13位に終わりました。

後で聞いた話では、昨年の予選会后、藤原監督は1年生の舟津選手を主将から外す予定でしたが、本人は譲らず、最終的には主将舟津、副主将は4年生の竹内がなり、4月からは寮で全員揃って朝食を取り、お互いに積極的に言葉を交わすよう心がけ、チームの輪を結束して行き、来年の正月の箱根駅伝ではシード権を目標に、特に舟津主将は1区を希望し、同年代の東海大の選手にはライバル意識を燃やしております。

来年1月2日(3区)3日(8区)は藤沢白門会会員全員で応援していきます。

(箱根駅伝を応援する会 城崎芳彦)



そして時は経ち平成30年、藤沢に中央の幟旗が無事帰ってきました!

第94回箱根駅伝について

悔しさをバネに、来年のシード権確保を目指す

今回4回目の予選会に廻った我が中央大学陸上部は、予想では非常に苦戦するのではないかと言われたが、結果は帝京大、大東大に続いて3位に入った。59分台を中山、舟津、堀尾の3選手が出して、本選に大いに期待できる記録となりました。

12月9日(土)には、小川さんと一緒に駅伝部の合宿所がある豊田に激励を込めて金一封を持参。選手の練習風景を見学し、主力の中山選手の怪我也も大分良くなり、目標は8位以内と藤原監督は言明しておられましたが、期待のできる言葉でした。

本選当日、1区の主将舟津は前半粘っていい位置を保っていました。六郷橋から粘り切れず、トップと42秒差の12位。2区では経験している堀尾が頑張り、9位に押し上げました。

3区中山はエースとして力走して8位。4区苗村は安定した走りをそのままキープして5区へ。ルーキーながらも山登りに挑んだ5区敵は、途中で11位まで順位を落としたものの、粘りを見せ、結果的に往路は10位でゴールしました。

2日目、6区の2年生富原は順位2つ落として12位。厳しい順位からタスキを受け取った7区安永は再びシード圏内に食い込みたいたところだったが、前との差は離された。タスキは8区の神崎に渡されたが強風に見舞われて残り3キロ地点の遊行寺の坂で失速した。9区の1年生の池田にタスキを渡すが、力不足で流れに乗ることができず区間18位に沈み、総合順位も二つ落とした。

最初で最後の箱根駅伝となった竹内は中大唯一の4年生としてアンカー10区に挑んだ。13キロ地点までは区間9位の好走を見せたが後半徐々に失速し、最終的に区間18位、総合でも15位となった。6年ぶりのシードならず、また今年も

10月13日に行われる予選会に回る事になりましたが、今年の予選会は強豪の順大、駒大。名門の日大、明大が出場しますから、予断許さない厳しい状況だと思います。

陸上部は主査を含めて32名と少なく、駒不足で経験者も少ないが、来年は2年3年生が多く、また今春には有望な生徒が10名程入学します。この1年の悔しさをバネにして厳しい練習を乗り越え、予選会を勝ち上がり、シード権を確保できるよう、頑張りたいと思っています。



復路の応援、2年分の思いがこもる



8区神崎(こうざき)のひたむきな走り

(箱根駅伝を応援する会 城崎芳彦)

第十回若手懇親ボウリング大会 & パーティー開催

本年度より昭和 60 年以降卒業の会員で再構成され、若返りの図られた若手委員会では、記念すべき「第十回若手懇親ボウリング大会 & パーティー」が平成 29 年 11 月 25 日（土）江の島ボウリングセンターで催され、12 名のボウリング参加、15 名のパーティー参加を集める中、盛況に行われました。



さあ、ゲームスタートです！

序盤は 1 ゲーム終了時点で、なんと古豪中谷哲夫先輩と鉢舘美江さん（鉢舘博先輩夫人）が同点首位と、新装若手会にとってはあわやという船出となりかけましたが、こうなっては若手会も黙ってはおらず、若手のホープ高井昇さんがじわりじわりと 2 ゲーム目、3 ゲーム目のスコアを伸ばし連取。

最後まで結果の分からない緊迫したシーソーゲームの中でも、拍手とハイタッチが飛び交い、和気藹々とした雰囲気の中、あっという間に最終 3 ゲームが終わりました。

ゲーム終了後には、原新若手委員長の挨拶にはじまり、表彰式が開催されました。

ベテランのテクニックに裏打ちされた序盤のリードが勝ったか、新生若手会の追い上げが報われたか、最終集計で参加者が息を呑んで見守る中、高井昇さんが優勝・ハイスコア賞とダブルタイトルを獲得。新生若手会の先駆けにこれ以上無いドラマチックな勝利をもぎ取りました。



原若手委員長より表彰式の挨拶



続いて片岡会長の乾杯で懇親会がスタートし、大皿に盛られた食べきれない程の料理と、飲み放題のアルコールも進み、舌も滑らかに歓談も盛り上がりました。

最後に優勝トロフィーを手にした高井さんを囲んで記念撮影をして、来年の第十一回での再会を約し、各自賞品を片手に、ほろ酔い気分でボウリングセンターを後にしました。

次回も、若手会員の親睦を一層広げるためのイベントとして開催致します。多数の若手会員に気軽に参加いただき、盛り上がる会にしていきます。

若手会員、こころよりお待ちしております。

(若手委員長 原 輝雄)

お疲れ様、乾杯！



総合優勝の高井君、おめでとうございます！

|| 社会福祉活動委員会 ||

平成 29 年 8 月 27 日(日)、獺郷にある社会福祉法人光友会湘南ふくし村で開催された第 25 回ふくし村まつりに参加いたしました。この会は、光友会と地域の方々の交流を図ることを目的としています。各種の模擬店が出たり、地域の方の太鼓の競演や盆踊りがあったりと楽しい一日を過ごすことができました。



湘南ふくし村まつりの景品交換所
「何が当たったかな〜？」

また、平成 30 年 1 月 27 日(土)に開催された藤沢白門会新春のつどいでは、恒例の車椅子を藤沢市に二台寄贈いたしました。これは、藤沢白門会五周年記念行事として車椅子の寄贈が始まってから、今回で 28 台目になるものです。当日は、片岡会長から鈴木藤沢市長に直接寄贈することができました。



車椅子寄贈での、貴重なツーショット

車椅子の購入資金としては、総会、地引き綱大会、新春のつどいなどの藤沢白門会の各種行事での募金活動や親睦会やサークル活動費の一部残金を寄付していただいています。各行事等に参会された方々のご芳志で毎年毎年車椅子を寄贈し続けることができますことは、とても素晴らしいことと思えます。ご協力いただいた皆様には感謝申し上げるとともに、今後とも趣旨をご理解いただきよろしくご協力をお願いいたします。

さて、少子高齢化が進むことが予想される今日では、様々な福祉活動、ボランティア活動が必要とされてきています。個人的に福祉活動に貢献されている会員の方もいますが、今後は社会福祉活動委員会として多くの情報をお伝えし、多面的に社会福祉に貢献できるようにしていきたいと考えております。その節はぜひよろしくお願いいたします。

また、東京オリンピック 2020 の開催に伴い、藤沢市ではセーリング競技が実施される予定です。SUC では、外国人の方への通訳のボランティアを募集することになっています。これも広い意味での社会福祉貢献につながるものと考えられます。

藤沢白門会では、地域に貢献することを会の一つの目的としています。これからも、幅広く藤沢市の社会福祉に貢献できるように会員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(社会福祉活動委員会 端山幸雄)

サークル同好会活動

《緑と歴史散歩サークル》

平成 29 年度の緑と歴史散歩サークルは、恒例の例会を 2 回（第 56 回、57 回）実施した。第 56 回例会では、4 月から一般公開された大磯の旧吉田茂邸を見学し、第 57 回例会は、川崎白門会の鎌倉散策にコラボ参加して頼朝の夢のあとを訪ねた。

第 56 回例会「大磯城山公園と旧吉田茂邸散策」

晴天に恵まれて蒸し暑いほどの 7 月 8 日（土）午前 10 時に、JR 東海道線大磯駅に川崎白門会のメンバーを含め 24 人が集合し、NPO 法人大磯ガイドボランティア協会のメンバーであり、また平塚白門会会長としても活躍されている山田喜一さんのガイドにより散策を開始した。まず駅前で、大磯に住んだ伊藤博文や大隈重信などの著名人のことやかつて駅裏にあったホテル等の建築物の解説があり、続いて島崎藤村（1872 - 1943）が終の棲家とした旧島崎藤村邸に向け歩みを進めた。大磯駅



島崎藤村邸にて、文豪の静かな晩年を偲ぶ

から徒歩約 5 分の地にある藤村邸は、145 坪の敷地に 24 坪の木造平屋建ての住居で、閑静な雰囲気の中で晩年を過ごした藤村の在りし日の姿が良く偲ばれた。町の観光協会の職員が常駐しており、内部の説明や質問にも丁寧に対応してくれた。

そして、駅前からバスで大磯城山公園に向かう。大磯城山公園は、明治 31 年（1896 年）に三井財閥当主が別荘を構え、庭園を整備したもので茶人として有名な織田有楽齋が建てた国宝の茶室「如庵」もあったが、現在

は城山庵として再建されている。平成 2 年（1990 年）に県立大磯城山公園として開園し、国道 1 号線を挟み旧三井別邸地区と旧吉田茂邸地区を併せて一体とした公園として一般に開放されている。園内の展望台から見る富士山や相模湾の眺めは一見の価値がありお勧めのポイント。園内にある大磯町郷土資料館で休憩した後、散策や周りの展望を楽しんだ。

さて、いよいよ国道一号線を越えて旧吉田茂邸に入る。見学は有料（500 円）。ここは、戦後の内閣総理大臣を務めた吉田茂（1878 - 1967）が昭和 20 年（1945 年）から暮らしていた邸宅であり、もとは明治 17 年（1884 年）に吉田茂の養父・吉田健三が別荘として建てたのがはじまりで、養父亡きあと吉田茂が引き継いだ。

建物の改築と増築の設計は、日本の古典的な数寄屋建築を見直し、モダニズムと古典の融合を目指し、近代数寄屋建築という様式を確立した建築家・吉田五十八で、直線的な建物の外観や、モルタル塗り回しの大壁といったところにその特徴がある。しかし旧吉田邸は、平成 21 年（2009 年）3 月 22 日の火災で母屋が全焼。その後大磯町は再建のための募金活動を行うなどで資金を確保し、平成 27 年に再建工事に着手。翌平成 28 年に完了し、平成 29 年 4 月から一般公開となったものである。吉田茂は昭和 29 年（1954 年）に内閣総理大臣を辞任したのち、大磯に隠棲した。しかし大磯の吉田の自宅には、引退後も多くの人々が訪れ、「大磯詣」との言葉も生まれた。邸内を

見学し、吉田茂の銅像前で記念写真を撮る。目の前に相模湾が拡がり、外交官として活躍した吉田の目がはるかな洋上から日本の行く末を見ているようにも感じられた。



涼を求めて緑の中に

吉田邸を後にし、大磯警察署前にある昼食会場の楽市楽座へ歩いて向かう。暑さのため約 500 メートルの距離がひどく長く感じられた。しかし、冷えたビールに近海物の鮮魚をふんだんに使った昼食をいただき、皆さん大いに満足の様。約 1 時間の昼食休憩の後、バスで大磯駅に帰り、駅前にある澤田美喜記念館（隠れキリシタン資料館）を見学した。澤田美喜（1901 - 1980）は、三菱財閥 3 代目総帥岩崎久弥の長女として生まれ、外交官澤田廉三と結婚し夫に同行して世界各地を回り、戦後、混血児救済のための施設であるエリザベス・サンダース・ホームを創立し多くの混血児の救済に尽力した。その一方で、自身もクリスチャンであった澤田美喜は、日本のキリシタンに魅せられて、九州の島々を巡り歩いて千点を超える遺物を収集し、広く一般に公開したのがこの記念館である。キリスト教が禁教となり、信徒が次々と迫害された江戸時代に死をも恐れずに必死に信仰を守り通した人たちの隠しおおせた品々には何とも言えない感慨を受けた。駅前にあるのでは非立ち寄り見学していただきたい施設である。見学が終了し、駅前で解散したのが午後 3 時頃。山田喜一さんの名解説に暑さも吹っ飛んだ一日であった。

第 57 回例会「鎌倉散策～頼朝の夢のあとを訪ねる」

ぽつぽつとした小雨が降る中、それでも大崩れはないということで、鎌倉駅に集合したのが午前 10 時半過ぎ。川崎白門会主催の鎌倉散策に藤沢から 9 名、横浜から 2 名がコラボ参加し、総勢 22 名で開催したのが第 57 回例会であった。

今回は、鎌倉駅から二階堂の頼朝が建立した史跡「永福寺跡」を往復する約 10km のコース。永福寺は、頼朝が文治 5 年（1189 年）に奥州平泉を攻めた後、戦いで亡くなった数万の将兵の鎮護のために建てた寺院で、頼朝は、平泉で毛越寺や中尊寺を見て、建立を思い立ったとされており、応永 12 年（1405 年）に火災により焼失し室町時代末期に廃絶したものを、鎌倉市が発掘調査を進め、

寺の基礎や庭園の復元を行い、今年の7月から公開されているものである。寺の中心に二階堂があり、それだけがそのまま現在の二階堂の地名として残っている。ガイドは、鎌倉市ガイド協会の丹澤芳明さん。中央大学出身で白門の同窓とのこと。

まず、鎌倉駅西口から八坂神社まで進み、芥川龍之介や岡本かの子、大正天皇の生母柳原愛子や柳原白蓮などにゆかりのあったホテルニュー鎌倉を見る。続いて、鎌倉五山第3位の寿福寺を見学。苔寺として参道の景観がすばらしい。寿福寺は、正治2年（1200年）の創建で、開山はお茶の種を中国から持ち帰ったとされる栄西。開基は頼朝夫人の北条政子。寺の中には入れないが、静かなた



閑かな中にも厳かな寿福寺山門前

ずまいの寿福寺は一服の清涼剤。大佛次郎などが眠る墓所を回り、その後寺の前で記念写真を撮る。次に、鶴岡八幡宮を目指し歩みを進める。途中で外国映画の輸入、海外への日本映画の紹介で著名な川喜多長政・かしこ夫妻の屋敷「川喜多記念館」を見て鶴岡八幡宮へ。鎌倉の代名詞とも言える鶴岡八幡宮はあまりにも有名で解説するのも気がひけるが、

1063年に源頼義が京都の岩清水八幡宮を鎌倉由比郷にまつたのが始まりとされ、その後、頼朝が1180年に由比郷から小林郷松が岡に移した。これを鶴岡若宮と呼び若宮大路の名もこれに由来する。そして1191年に現在地に移したのが現在の鶴岡八幡宮である。鎌倉幕府の歴史とともにあり、幾多の事件が起こったのも見て来ている。「よし野山 峰の白雪 ふみわけて いりにし人のあとぞこいしき」と唄い舞う静の姿が切ない。この日はあいにくの雨にもかかわらず参詣の人が多し。八幡宮にお参りをし、境内を散策してから荏柄天神社から鎌倉宮（大塔宮）へ向かう。鎌倉宮は明治2年（1869年）明治天皇の創建。祭神は足利尊氏と対立し鎌倉へ流され幽閉、殺害された後醍醐護天皇の皇子護良親王。続いて、永福寺跡に歩みを進める。永福寺は、これぞ頼朝が夢の跡とも言うべきもので、頼朝が建立した三大寺院（永福寺、鶴岡八幡宮、勝長寿院）の一つ。建久3年（1192年）義経や藤原泰衡などの供養のため、中尊寺の二階堂大長寿院をまねて本堂、阿弥陀堂、薬師堂を建立。池を巡らせ、当時はわが国最大級の寺院であった。鎌倉幕府の迎賓館的な施設であったが、火災による焼失・再建を繰り返し、前記のように室町時代末期に廃絶となった。雨のため、施設園庭内での昼食を諦め、鎌倉宮の休憩施設で昼食休憩を取り、八幡宮経由でゆっくりと帰った。そして鎌倉駅前のそば屋で懇親会を開き旧交を温めた。鎌倉はいつ来ても見飽きることなく、今後とも川崎白門会や横浜白門会とのコラボで散策ができればと願っている。

（緑と歴史散歩サークル幹事 澤田英樹）

《ゴルフサークル》

～会員相互の親睦と新たな出会い～

第 32 回ゴルフコンペ開催

2017年5月29日（月）、第32回目となるゴルフコンペを大厚木カントリークラブ桜コースにて開催した。当日の参加者は7名で、優勝者は34年法学部卒の大先輩、野口義之さん、うれしい初優勝であった。



よーし、がんばるゾ！

唐突ではあるが、ここでコンペを行う上で欠かせない順位を決める方式について解説したい。ゴルフは他のスポーツと同様、競技において実力差で勝敗が決まるスポーツである。テレビ中継されるプロの試合は、自分が打った打数そのままのスコアになるので、実力がはっきりと結果につながり、他人よりも1打でも少なければ優勝できる。

一方で、他のスポーツにはない、ハンディキャップ（以下「ハンデ」という。）を使うことによって実力差を修正し、誰もが優勝するチャンスを作り出す、独特の順位決定方式を持っている。なぜこうした方式ができたのだろうか？アマチュアはプロと違って、どうしても実力に差がでる。実力が高い者がいつも勝っていても面白くないので、実力の低い者にはたくさんのハンデが、高い者には少ないハンデが与えられ、対等に勝負ができる方式が考案されたのである。

このハンデを決める方法がいくつかあるが、最も多く使われるのが「新ペリア方式」である。手順は次のとおりである。まず、18ホールのうち、12ホールをあらかじめ当日プレーする人には伝えず、コース側で決めておく。ラウンド終了後、この12ホールの各プレーヤーの合計打数を1.5倍し、

そのコースの規定打数（ほとんどのコースは 72 打）を引いて、残りの打数の 8 割（小数点以下 1 桁まで）がその日のその人のハンデとなる。例えば 12 ホールの合計打数が 60 だった場合、1.5 倍した 90 から規定打数 72 を引いた 18 の 8 割、14.4 がハンデとなる。そのプレイヤーの 18 ホールのスコアが 92 だった場合、14.4 を引いた 77.6 がスコアとなり、これで順位が決まる。ゴルフ用語で前者 92 を「グロス」、後者 77.6 を「ネット」と言う。12 ホールの合計打数が多く、他の 6 ホールの合計打数が少ないほうが有利となるが、どのホールが 12 ホールに該当するかはプレー終了後にならないとわからないので、意図的にハンデを増やすように調整することができない。ハンデに恵まれるかどうかはまさに運を天に任せるしかなく、それが勝敗を決することになる。そうした一か八かのギャンブル性もコンペを盛り上げる要素となっている。

今回優勝された野口大先輩のスコアは 18 ホールで 113 だったが、隠しホールの合計から算出されたハンディキャップが 39.6 となり、これを差し引いた 73.4 が 7 人の参加者の中で一番少なかったため、優勝となった訳である。

野口大先輩は、コンペへの参加率が非常に高く、ゴルフサークルの中心的存在である。いつまでも元気にご参加いただき、われわれの目標となるプレーを見せていただければと思う。

優勝	野口 義之	グロス	113	ハンデ	39.6	ネット	73.4
2位	川俣 誠	グロス	82	ハンデ	7.2	ネット	74.8
3位	澤田 英樹	グロス	97	ハンデ	19.2	ネット	77.8



野口大先輩、初優勝おめでとうございます！

県下合同白門ゴルフコンペ参加

平成 29 年度の幹事は、小田原白門会が担当し、平成 29 年 10 月 24 日（火）、小田原湯本カントリークラブで開催された。川崎、横浜、相模原、平塚、茅ヶ崎、小田原、逗葉、藤沢の県内各白門会から総勢 33 名が参加した。藤沢からの参加者は、澤田英樹、西尾雄一郎、岸本寛之、川俣誠の 4 人である。

県下合同白門ゴルフコンペが始まったのは、平成 13 年 9 月 13 日（木）相模原カントリークラブである。横浜白門会が発起人となり県内白門会に呼び掛けてスタートした。第 2 回も横浜白門会が幹事となり平成 15 年 3 月 19 日に東名厚木カントリークラブにて開催された。その後、記録が無いのではっきりしないが、しばらく開催されていないと思われる。

久しぶりとなる平成 23 年 10 月 27 日（木）に、当白門会が幹事となり伊豆スカイラインカントリークラブにて開催した。このコースは、小田原白門会の故椎野副会長が CEO をされており、何かとたいへんお世話になったことを思い出す。ご冥福を祈りたい。この年からは毎年幹事持ち回りで開催されており、平成 24 年芙蓉カントリークラブ（幹事：横浜白門会）、平成 25 年 7 月 11 日（木）相模原ゴルフクラブ（幹事：川崎白門会）、平成 26 年 9 月 16 日（火）スリーハンドレッドクラブ（幹事：茅ヶ崎白門会）、平成 27 年 10 月 5 日（月）湘南カントリークラブ（幹事：藤沢白門会・兼創立 20 周年記念コンペ）、平成 28 年 11 月 10 日（幹事：平塚白門会）、そして先に述べた平成 29 年に続いている。回数はおそらく 9 回ではないかと思われるが、読者の中で、確かな「記録」をお持ちならば、ご一報いただきたい。

次回は相模原白門会が初めて幹事を務めることとなる。これまで幹事となった白門会は名門コースを選ぶ傾向にあったが、懇親を最大の目的とするならば、必ずしも名門コースにこだわる必要はないと考える。プレー料金も名門は平日でも高く、会費を加えると 25,000 円から 30,000 円にもなる。せっかく平日開催が慣例となっているのであれば、リーズナブルな値段でプレーできるコースの方が、参加者の負担も少なく済むので返ってありがたいのではないかと期待したい。

優勝	萩原 俊和（相模原）	グロス	89	ハンデ	16.6	ネット	72.4
2 位	川俣 誠（藤沢）	グロス	80	ハンデ	7.1	ネット	72.9
3 位	藁科 孝久（茅ヶ崎）	グロス	98	ハンデ	24.9	ネット	73.1

慶応義塾大学藤沢三田会との懇親ゴルフ

藤沢三田会と懇親ゴルフをやるきっかけとなったのは、平成 29 年 6 月 10 に行われた藤沢稲門会の地引網大会であった。当白門会から城崎副会長、杉山理事、川俣の 3 名が参加した折、同席した藤沢三田会の北村幹事長からお誘いをいただいたのである。藤沢稲門会と藤沢三田会は年 2 回早慶戦を行っているとのことで、そこに入ってくださいというのである。いきなりのお誘いで、少し戸惑いもあったため、まずは藤沢三田会さんと懇親ゴルフをやって、その次のステップにと提案した訳である。

その後、三田会のゴルフサークル世話役である、大西俊一氏からメールが来て、日程調整に入ったが、お互いなかなか合わずとうとう実現したのは暮れも押し詰まった 12 月 22 日（金）であった。大西俊一氏のホームコースである小田原湯本カントリークラブにて、2 組 8 名でラウンドした。藤沢三田会からは、北村さん、大西さん、井上さん、山口さん、当白門会からは澤田さん、遠藤さん、

西尾さんと川俣の4人である。1組目は北村さん、井上さん、澤田さん、遠藤さん、2組目は大西さん、山口さん、西尾さん、川俣という、それぞれ2名ずつに分かれたため、ラウンド中や昼食時、ラウンド終了後もレストランに集合し、ゴルフをはじめ、三田会のこと、白門会のことなど情報交換し、あるいは世間話しに花を咲かせて十分に交流し、楽しい時間を過ごすことができた。次回はお互い8人、4組で交流することを誓って散会となった。

これまでは白門会以外との交流は行ってこなかったが、今後は三田会、稲門会との交流も視野に入れていきたいと考えている。

(ゴルフサークル幹事 川俣 誠)



「藤沢三田会と一緒に」

手前左北村さん・手前右澤田さん・後左より井上さん・山口さん・遠藤さん・大西さん・川俣



《囲碁サークル》

『囲碁は楽し』

囲碁サークルは今年も四人で頑張ってきました。

勿論明大鳥鷺会の方々とは偶数月に「和氣藹々」と交流が続いております。

日本棋院のHPによると「囲碁は集中力が身につく、創造力を育み、発想が豊かになる頭脳スポーツです」とあります。

然し、私達は「日進月歩」どころか、ボケ防止とにならない様に「苦心惨憺」していると云うのが現状です。

長い間の顔馴染みと対局していると、相手方の戦法とか傾向がお互いに分かって来て、よしこの次はこう云う戦法でと考えるのも楽しいものです。

人によっては「猪突猛進」型あり、「熟慮断行」型あり、対戦中はお互い「一喜一憂」「四苦八苦」しながら、終局すると勝者は控えめながら「意気揚々」として、敗者は「切歯扼腕」と云う事になります。

と云う訳で、囲碁から生まれた言葉を大辞典から幾つか拾い出して見ましょう。



大森八段に指導を受ける

有名なのは「^{おかめはちもく}傍目八目」＝他人の碁を脇から見ている者には、対局者の手がよく分かり八目先が見通せると云う意味。

転じて物事の是非や得失は、当人達より第三者の方が正しく判断出来ると云う例えに用いられている。

次に「^{ふせき}布石」＝囲碁で、序盤戦の要所要所への石の配置であり、将来の為に配置しておく備えの事。例えば、「新党結成への布石を打つ」等と用いられる。

「^{すていし}捨石」＝囲碁で、自分の形勢を有利に導く為、相手に取らせるように打つ石。正に野球での犠牲バントの様な意味で使われる。

「^{いちもく}一目置く」＝1つ石を置いて勝負を始めるところから、自分より相手が優れている事を認め一歩譲る、強めて「一目も二目も置く」とも云う。「誰もが一目置く人物」等と使われている。

「^{だめ}駄目」＝囲碁で、両者の境にあってどちらの所有にもならない目の事を云う。まだまだ囲碁から生まれた格言が転じて一般にも使われているものが沢山有る様です。私達も先に言った様にボケない様楽しみながら、「^{やろうじだい}夜郎自大」＝自分の力量を知らない者が仲間内で威張る事、井の中の蛙大海を知らずの意。

にならない様お互い自戒しながら囲碁を続けて行く心算です。

最後に、有名な川柳で終わります。

「^{ごがたき}碁敵は^{にく}憎さも^{にく}憎し^{なつ}懐かしい」

(囲碁サークル 杉森 淳)



対局を終え、一息入れる

《写真サークル》

少ないメンバーで頑張っています！

平成 29 年 1 月 10 日 写真サークルの元リーダーで療養加療中の駒井登さん（35 年卒）が亡くなられた。

写真サークルは西島一光、増田隅雄と高島良太郎の 3 名になってしまいました。ここで個人的に別な写真グループの世話役をされておられる、大木樹雄さんが助っ人として、写真グループに協力していただいております。



江ノ島西浜のサーファーと海鳥

4 月 4 日

グループ撮影会

天候曇りで“ダイヤモンド富士”見えず、協力メンバー大木樹雄さんとその友人で「江ノ島の撮影ポイントに詳しい」岡野さんが加わっていただき江の島周辺を撮影。（参加：高島良太郎・増田隅雄・大木樹雄）

5 月 19 日 鎌倉文学館、バラ園撮影会。（参加：西島一光・増田隅雄・大木樹雄）

7 月 3 日 メンバーの写真品評会、撮影スケジュールの検討、市民活動推進センター。
（参加：西島一光・高島良太郎・大木樹雄）

8 月 19 日 藤沢白門会地引き綱大会参加撮影加。（参加：高島良太郎・増田隅雄・大木樹雄）



江ノ島を背景に
それ引け！よいしょ！よいしょ！



片岡会長も一緒に
わっしょい！わっしょい！

8月30日 大木さんたちのグループ『なぎさ瞳の会』写真展鑑賞（市民ギャラリー）を西島さん、増田さん、高島で訪問鑑賞。大木さんの解説を拝聴。その後懇談会。

（参加：西島一光・高島良太郎・増田隅雄・大木樹雄）



「お父さん、釣れた〜！！」

9月5日から9日「ダイヤモンド富士」を江ノ島から撮る予定も、連日天候不順で撮影不可能、中止。

高島個人で片瀬江ノ島漁港の堤防で連日「ダイヤモンド富士」を狙うも、富士山と太陽が見えず、父と娘の釣りを撮る。

10月 予定の八王子庭園撮影会、天候に恵まれず中止。

11月25日 藤沢白門会 若手ボウリング大会、取材撮影。

（参加：高島良太郎）



ストライク！決めた！
若手会ボウリング

11月30日 写真サークル打ち合わせ。増田隅雄リーダー、体調不安定で施設に入ったため、十分なリーダーとして役目が完遂不可との申告を了承。高島良太郎が代行。

また来年度は休会を検討。

藤沢白門会「新春のつどい」
(1月27日)写真展示を決定。個人

作品、地引き網写真、ボウリング写真、箱根駅伝写真展示を予定。

箱根駅伝(1月2～3日)撮影を決定。(参加：西島一光・高島良太郎・増田隅雄・大木樹雄)

12月21日 写真品評会 撮影会及び自主撮影作品の品評会、藤沢交流館。

（参加：西島一光・高島良太郎・増田隅雄・大木樹雄）

1月2～3日 箱根駅伝、応援と撮影。(参加：西島一光・高島良太郎・大木樹雄)

1月27日 藤沢白門会『新春のつどい』写真展示。(参加：西島一光・高島良太郎・増田隅雄・大木樹雄)

(写真サークル幹事代行 高島良太郎)

《白門サロン会》

第54回サロン会は、平成29年2月19日(日)、イタリアンレストラン「ポルトヴィーノ」で開かれ、20名の会員が集まりました。同店におけるサロン会は第13回(平成13年11月25日開催)以来今回5回目の利用であり、4年振りに同店のイタリアンフードを楽しみました。



ポルトヴィーノでイタリアンを堪能



第55回サロン会は、平成29年10月17日(日)、東京都港区の愛宕神社参道脇にある「愛宕荘」で、第42回サロン会(平成23年11月10日)以来6年振りに「ふぐ会席」を賞味することができました。遠路はるばる参加された15名の会員は、フグ刺し、フグから揚げ、フグちり、フグ雑炊等コース料理を食べながら、珍味のフグひれ酒とともにじっくり味わいました。



サロン会は現在約40名の会員で構成されています。ご興味ある方は是非幹事までお知らせください。次回以降、案内状を差し上げます。

(白門サロン会幹事 林 孝靖)

久しぶりのふぐ会席に一同満足!

《テニスサークル》

第2回テニスサークル練習会を合宿で開催！

平成29年11月23日、旅行サークルとのコラボレーションにより伊豆長岡京急ホテルテニスコートにおいて今年度2回目の練習会を片岡会長ご夫妻、鉢舘顧問ご夫妻、遠藤夫妻のプレーヤー6名と開催スポンサーである小山副会長の参加により開催しました。



颯爽とテニスコートへ出陣！

当日は前日からの強雨が午前中まで続いており、直前まで開催が危ぶまれていましたが、現地到着時には晴れ間が出るようになり、開始予定の13時にはすっかりテニス日和になっていました。

練習試合では、平均年齢約70歳とは思えないような軽やかなフットワークから繰り出される力強いストロークや熟練の技による絶妙のリターンなど、往年のプレーを髣髴させる展開で、約2時間ほとんど休みも無いくらいプレーに熱中し、後日、筋肉痛に悩まされることを忘れるほど存分に堪能しました。

テニスコートは貸切り状態でコンディションも良好でありましたが、雨上がり直後でボールがすぐに水を含んでしまう状態だったことから、終始、小山副会長にボールキープ支援をしていただきました。施設利用に係るご尽力と、練習会の円滑な進行へのご支援に対して、誌面をお借りして改めて感謝申し上げます。

プレー後はホテルの温泉に浸かって疲れた身体をほぐし、名跡等を巡ってきた旅行参加者とともに銘酒を酌み交わしながら豪華夕食をいただく中で、懇親を一層深めることが出来ました。

今回は荒天が予想された中でのサークル発足初の市外での合宿練習ということもあり、参加者が少数にとどまりましたが、市内での通常練習会とともに、多くの会員が参加しやすい合宿形式での練習会も企画し、更に会員同士の交流懇親を深めて白門会の活性化に繋げて行きたいと思います。



雲間から光もさして、無事練習会を開催

(テニスサークル 遠藤主計)

《旅行サークル》

伊豆長岡温泉 1泊2日の旅

今回は京急開発社長の小山さんのご厚意により、伊豆長岡温泉にある京急ホテルに11月23日（木・祝日）～24日（金）の1泊2日の旅行を企画しました。



温泉と美味しい料理やお酒を楽しむためにも
テニスコートで一汗！

当日朝9時近くに片岡会長夫妻、小山さんと鉢蟻さん夫妻を遠藤さん夫妻の車に乗り、途中で昼食を取り、昼過ぎに到着し、ホテルにチェックインし、それからホテル専用のテニスコートで3組のペアでプレーをし、2時間程汗を流しました。小山さんはボール拾いとボール磨きのお手伝いをしました。電車で参加された鶴田明邦さんは家を8時半頃家を出て、相模大野駅より小田急ロマンスカーで箱根湯本まで行き、以前から興味があった湯本の「秘宝館」を覗き、その足で

芦ノ湖へ行き、バスに乗り変えて三島の「スカイウォーク」に立ち寄り、伊豆箱根鉄道で伊豆長岡駅に4時過ぎに着き、小山さんがホテルのマイクロバスで出迎えに来てくれました。

小生は、澤田さんと川俣さんの車に乗り、途中でアルコールを少々購入して後部座席で小宴会をしながら伊豆の国市の「葦山反射炉」を見学しました。葦山反射炉を造った人は「江川英龍」で安政4年（1857年）に完成させたとされ、平成27年（2015年）7月に世界文化遺産に登録されたそうです。

ホテルに4時過ぎに到着してロビーで横浜DeNAベイスターズのデッカイ記念野球ボールが展示して有りました。小山さんに聞くと毎年12月、横浜DeNAベイスターズの納会が開かれており、選手やコーチ、職員等120名程参加され、盛大に行われているとの事でした。

浴室が3つあるお風呂で温泉に浸かり、のんびり過ごし、部屋に戻り川俣さん、澤田さん等で早速ビールを飲み始め、6時から宴会場で11人の



いよいよ宴会が開かれ、料理長自慢の皿が並ぶ

宴会が始まり、アルコール（ビール、日本酒、焼酎）の飲み放題で、圧巻は京急ホテル料理長前山 猛さんが造られた料理で食前酒から始まり、海の幸（伊勢海老の温泉蒸等）、山の幸（松茸の

お吸い物等)と和洋折衷で12種類の料理が出てきて満足し、又仲居さんが良く気が利く方で大いに宴会を楽しくしてくれました。

8時半過ぎに宴会は終わり、2次会はカラオケバーで歌ったり、飲んだり楽しいひと時を過ごし、特に1月27日の「新春のつどい」でシャンソンを歌って頂く、鉢蟬さんにお披露目して頂きました。

11時過ぎに部屋に戻り、再度私達の部屋で飲みなおして12時過ぎにお開きとしました。

翌朝私と川俣さんは用事が有るので7時にはホテルをチェックアウトして9時過ぎには自宅に戻りました。

他の方達はホテルでゆっくり朝食を取り、片岡会長他7名は遠藤さんの車で1時過ぎには帰宅されたそうです。

また、電机组の鶴田さんは、10時過ぎの電車に乗り、1時過ぎには自宅に着かれたそうです。

澤田さんは葦山近くにある源頼朝の流刑地と伝えられる史跡「蛭ヶ小島」を尋ねられ、帰宅の途に着かれたとの事でした。

今回の旅行費用はオール込みで(宿泊代、飲み物飲み放題、カラオケバー込みにお土産の温泉饅頭付きでなんと¥14,000で朝食無の私と川俣さんは¥13,000でした。皆さん大満足でした。

京急ホテルは平成30年4月にはニューリニアルするようですので、機会あったら是非行きたいと思っています。

小山さん今回大変お世話になり、有難う御座いました。



「新春のつどい」に向けて
シャンソンの猛特訓中(?)

(副会長・旅行サークル幹事 城崎芳彦)



小山副会長、今回は本当に有難う御座いました！！

《音楽鑑賞サークル》

第100回音楽鑑賞会を迎え中央大学音楽研究会吹奏楽部 創部75周年記念事業「サマーコンサート2017」を はじめ感動を呼んだ記念演奏会を中心に鑑賞

平成29年新年早々の音楽鑑賞会は、「NPO法人湘南フィルハーモニー管弦楽団創団40周年記念第37回コンサート」（1月15日・茅ヶ崎市民文化会館大ホール）でワーグナー作曲「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より第1幕への前奏曲から始まりチャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番変ロ短調が演奏された。メインの曲はチャイコフスキー／バレエ組曲「白鳥の湖」の演奏で乃羽バレエ団が賛助出演してバレエ組曲のうち「白鳥たちの踊り」、「スペインの踊り」を披露するなど華やかなコンサートを楽しむことができました。



第100回音楽鑑賞会
新橋・ヤクルトホールのロビーで

第2回目の音楽鑑賞会は、今年、創部75周年を迎えた「中央大学音楽研究会スウィング部スウィング・クリスタル・オーケストラ第59回定期演奏会」（2月26日・ヤクルトホール）で、このコンサートが音楽鑑賞サークル**第100回目の音楽鑑賞会**となり、記憶に残る定期演奏会となりました。例によって第1ステージに It Don't Mean a Thing で華々しくレギュラーバンドが登場し Round Midnight など数曲を演奏し、続いて第2ステージではジュニア・バンドが Strike Up The Band, Moon River など5曲を、OB・OGで新たに編成された Middle OB・OG Band が歯切れのいいパフォーマンスで Evanology, Shiny Stockings など5曲を披露してラストステージへ、再度レギュラーバンドが最後の舞台に登場して Joy Spring, After You've Gone など5曲を演奏して盛り上げ、アンコール曲「When the Saints Go Marching in」で沸きに沸いたジャズ・ライブは終演となりました。



第59回スウィング・クリスタル・オーケストラ
コンサートの若々しく、華やかなステージ

スウィング・クリスタル・オーケストラ OB・OG
“Middle OB・OG Band” の快活なステージ



緑風の爽やか季節となった5月下旬には「男声合唱団白門グリークラブ第20回記念演奏会」(5月28日・北とぴあ・さくらホール)を鑑賞しました。この演奏会は4つのステージで構成され、第1ステージでは小山章三作曲の作品の組曲「四季」に続き、組曲「涅槃の時」をソプラノ盛田麻央さんとのコラボで歌い上げ、第2ステージは趣をかえてオペラ「Porgy and Bess」からのメドレー、第3ステージはポピュラーな曲を織り込んだ「白門グリークラブ愛唱歌アラカルト」でホールが和やかな雰囲気になり、最後のステージではミュージカル「The Student Prince」(学生王子)などバラエティに富んだ熱い演奏は平均年齢70歳を超えたとは思えない素晴らしいパフォーマンスに感動と驚きでした。



白門グリークラブ第20回記念演奏会
シニアパフォーマーの熱演



梅雨の季節を感じさせないままに夏模様となった7月初めの音楽鑑賞会は、中央大学音楽研究会スウィング部と同時期に創部75周年を迎えた中央大学音楽研究会「吹奏楽部創部75周年記念事業サマーコンサート2017」（7月2日・オリンパスホール八王子）で平成22年11月の中央大学創立125周年記念吹奏楽部第53回定期演奏会以来の鑑賞会でコンサートの入場料は無料で開催されました。コンサートは4部構成のステージで第1部オープニングステージでは「キャンディード序曲（作曲L. バーンスタイン／編曲C. グランドマン）」、「2017年度全日本吹奏コンクール課題曲」などが演奏され、第2部ポップスステージではどなたもご存知のポピュラーな曲と「カーペンターズ・フォーエバー」と題してカーペンターズのヒットナンバーがメドレーで演奏され、金管楽器の華やかな躍動感、アルトサクソ、クラリネット、トランペットなどによるパフォーマンスは心ときめかせる楽しいものでした。ラストの第3部メインステージの吹奏楽のために作曲された「トッカータ・マルツイアーレ」は現代の吹奏楽と一味違った気高さを感じさせる楽曲でした。2曲目の「ニュー・ロンドン・ピクチャア」も新世紀のロンドンの風景を描いた素晴らしい演奏でした。そしてアンコール曲はキャンディードより「Make Our Garden Grow」と「宝島」の2曲でホールを沸かせたコンサートは終演となりました。



創部75周年記念「サマーコンサート2017」
ホールを沸かせた中央大学吹奏楽部のステージ

藝術の秋の音楽鑑賞会は、恒例の「第13回栄ゾリス弦楽アンサンブルコンサート」（9月18日・栄区民文化センター・リリス）で最初に注目された作品・芥川也寸志／「弦楽のための三楽章《トリプティック》」が演奏され、次にNHK交響楽団首席オーボエ奏者青山聖樹氏がモーツァルト／オーボエ協奏曲を演奏して魅力のあるモーツァルトの世界へ誘い、何ともえないオーボエの音色に惹かれました。最後はベートーヴェン／弦楽四重奏曲第11番《セリオソ》が演奏され、アンコールでは軽やかで爽やかな旋律の「ボッケリーニ作曲／メヌエット」でモーツァルトとベートーヴェンの音楽世界が終わりました。帰路の途中、大船駅近くの居酒屋に立ち寄って音楽鑑賞会の常連参加者が懇親を深めて家路に向かいました。

今年最後の音楽鑑賞会は、来年第 80 回記念演奏会を迎える中央大学音楽研究会「管弦楽団第 78 回定期演奏会」(12 月 22 日・東京藝術劇場・コンサートホール)では喜歌劇「軽騎兵」序曲(F. スッペ)がトランペットの勇壮なファンファーレから始まり、勢いよく華やかに演奏され、正しく軽騎兵が疾走するが如くの勢いでファンファーレが鳴り響き、曲が閉じられました。休憩前の演奏は組曲『惑星』より「火星」「木星」(G. ホルスト)で「火星」(Mars, the Bringer of War)から演奏が始まって平原綾香さんが澄んだ美声で歌唱している「ジュピター」で有名な「木星」(Jupiter, the Bringer of Jollity)が繊細なヴァイオリンとともにホルン、ヴィオラ、チェロが綾なす不思議な世界を醸し出している演奏でありました。メインステージは「S. ラフマニノフ/交響曲第 2 番ホ短調」の演奏で第 1 楽章の低弦が醸し出す不穏の動き出しに始まりそして華麗なリズムに乗ってホルンとヴァイオリンが躍動する第 2 楽章、ロマンチックな雰囲気以て終る第 3 楽章、第 4 楽章では壮絶な疾走感で曲全体を締めくくる。演奏時間が 1 時間にも及ぶ大作を 5~6 ヶ月の内に仕上げたの大熱演がホールを沸かせ、感動を呼んだ演奏は「大変に素晴らしい」の一言しかありませんでした。

かように今年は記念演奏会を中心にして 6 回の音楽鑑賞会を開催いたしましたが、このほかに音楽愛好家仲間と連絡を取りながら以下のコンサートを聴きに出かけてみました。

- 5 月 27 日「中央大学音楽研究会管弦楽団第 77 回定期演奏会」(オリンパスホール・八王子)
- 7 月 22 日「中央大学音楽研究会第 59 回ジョイントコンサート」(パルテノン多摩・大ホール)
- 12 月 25 日「中央大学音楽研究会吹奏楽部創部 75 周年記念第 60 回定期演奏会」
(東京藝術劇場・コンサートホール)

音楽鑑賞サークル(同好会)活動状況(29 年 1 月以降)

2017(平成 29)年

- 1 月 15 日 第 99 回音楽鑑賞会(クラシック)開催(茅ヶ崎市民文化会館大ホール)
NPO 法人「湘南フィルハーモニー管弦楽団創団 40 周年記念第 37 回コンサート」
 - ・ワーグナー:「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より第 1 幕への前奏曲
 - ・チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第 1 番変ロ短調 Op.23
ピアノ独奏:土屋久美子
 - ・チャイコフスキー:バレエ組曲「白鳥の湖」Op.20a
 - 1. 情景 2. ワルツ 3. 白鳥たちの踊り(▽バレエ 乃羽バレエ団)
 - 4. パ・ダクシオン 5. ハンガリーの踊り(チャルダッシュ)
 - 6. スペインの踊り(▽バレエ 乃羽バレエ団) 7. ナポリの踊り
 - 8. マズルカ 9. 情景・終曲

指揮:河野真士 コンサートマスター:大宅一哉

- ・アンコール曲 チャイコフスキー:「花のワルツ」

- 2月26日 第100回音楽鑑賞会（スウィング・ジャズ）開催（ヤクルトホール）
「中央大学音楽研究会スウィング部スウィング・クリスタル・オーケストラ第59回定期演奏会」
- ・第1ステージ：レギュラーバンドが High Maintenance, Cherokee など5曲を演奏
 - ・第2ステージ：ジュニアバンドが Topsy, Alianza など5曲、ミドルOB・OGバンドが For Once in My Life, The Way We Were など5曲をそれぞれ演奏
 - ・第3ステージ：レギュラーバンドが First Song, Making' Whoopee など5曲を演奏して、アンコール曲の「When the Saints Go Marching in」で終演
- 5月28日 第101回音楽鑑賞会（クラシック・ポピュラー）開催（北とぴあ・さくらホール）
「男声合唱団白門グリークラブ第20回記念演奏会」
- ・第Ⅰステージ：小山 章三の作品から
 1. 組曲「四季」作詩：江面幸子 春・夏・秋・冬
 2. 組曲 ソプラノソロ付「涅槃の時」作詩：藪田義雄
 - 第1章 沙羅双樹
 - 第2章 鳥、獣、虫けらにいたるまで
 - 第3章 澄み澄みて

指揮：松本宰二 ソプラノ：盛田麻央 ピアノ：大庭直子
 - ・第Ⅱステージ：オペラ「Porgy and Bess（ポギーとベス）」からメドレー
Porgy and Bess 作曲：G.Gershwin／編曲：C.Warnick
指揮：松本宰二 ピアノ：大庭直子
 - ・第Ⅲステージ：白門グリークラブ愛唱歌アラカルト
 1. 「ふるさと」作詩：室生犀星／作曲：磯部 俣
 2. 男声合唱組曲「富士山」から「作品第壹」
作詩：草野心平／作曲：多田武彦
 3. 「Set Down Servant」黒人霊歌
 4. 「アムール河の波」作曲：シブアリツ
 5. 「若者たち」作詩：藤田敏雄／作曲：佐藤 勝
 6. 「乾 杯」作詩／作曲：長渕 剛
 7. 男声合唱組曲「水のいのち」から「雨」
作詩：高野喜久雄／作曲：高田三郎
 8. 歌劇「タンホイザー」から「巡礼の合唱」作曲：R.Wagner
指揮：藤澤賢二 ピアノ：大庭直子
 - ・第Ⅳステージ：ミュージカル「The Student Prince（学生王子）」から
作曲：S.Romberg／編曲：北村協一
 1. Golden Day's（輝かしい日々） 2. Drinking Song（乾杯）
 3. Deep in My Heart Dear（私の心の奥まで）
 4. Student Life（学生生活） 5. Srenade（セレナーデ）
 6. Student March Song（学生行進歌）

指揮：松本宰二 ピアノ：大庭直子

○7月2日 第102回音楽鑑賞会（クラシック）開催（オリンパスホール八王子）「中央大学音楽研究会吹奏楽部サマーコンサート2017」（創部75周年記念事業）

- ・Ⅰ部 オープニングステージ
「キャンディード序曲」「マーチ・シャイニング・ロード」「メタモルフォーゼ～吹奏楽のために～」『交響詩「影のない女」』 指揮：岡田友弘
- ・Ⅱ部 ポップスステージ
「インディゴ・クラウド」 指揮：中野隼輔
「美女と野獣」 指揮：大谷祐樹
「カーペンターズ・フォーエバー」 指揮：中野隼輔
- ・Ⅲ部 メインステージ
「トッカータ・マルツィアーレ」 指揮：岡田友弘
『ニュー・ロンドン・ピクチャーズ』
（「ミレニアム・ブリッジ」「ロンドン・アイ」「コンジェスチョン・チャージ」）
指揮：岡田友弘 MC：石尾和子
- ・アンコール曲「キャンディードより Make Our Garden Grow」
作曲 和泉宏隆／編曲 真島俊夫「宝島」

○9月18日 第103回音楽鑑賞会（クラシック）開催（栄区民文化センター・リリース）

「第13回栄ゾリステン弦楽アンサンブルコンサート」

- ・芥川也寸志：弦楽のための三楽章《トリプティーク》
- ・モーツァルト：オーボエ協奏曲 ハ長調 K.314
オーボエ独奏：青山聖樹 指揮：山田慶一
- ・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第11番 ヘ短調 Op.95《セリオーズ》
弦楽合奏版（マーラー編曲）
コンサートマスター：山田慶一
- ・アンコール曲 ボッケリーニ／「メヌエット」

○12月22日 第104回音楽鑑賞会（クラシック）開催（東京藝術劇場・コンサートホール）

「中央大学音楽研究会管弦楽団第78回定期演奏会」

- ・F. スッペ：喜歌劇「軽騎兵」序曲
- ・G. ホルスト：組曲『惑星』より「火星」「木星」
- ・S. ラフマニノフ：交響曲第2番 ホ短調 Op.27
- ・アンコール曲：P. チャイコフスキー／バレエ「くるみ割り人形」組曲より
トレパーク（ロシアの踊り）
コンサートマスター：熊澤皇毅 常任指揮者：佐藤寿一

末尾ではございますが音楽鑑賞会開催にあって中央大学音楽研究会の管弦楽団、吹奏楽部および記念コンサート主催された楽団役員の方々には、特段のご配慮いただきましたことを心から感謝申し上げます。

（音楽鑑賞サークル幹事 座間 毅）

《釣りサークル》



平成29年9月16日(土)8:30に大磯港から出船。当日は、九州地方にあった台風18号の影響で相模湾は時化模様。獲物は、近年相模湾で盛んになってきた「マグロ釣り」。長田君少々船酔い気味。

江ノ島沖10キロ位で竿を出す、アタリなし。50～60艘位がひしめき合っている状態に。獲物より釣り人の数のほうが多いです。(笑)

さあ、台風もなんのその！
船出だー！！



どうぞこの立派な獲物たち！今夜の晩酌は酒が進むぞお～！！

午前中まったくアタリも取り込みもなし。昼食を摂りながら平塚沖に移動。
その平塚沖で、なんとアタリが！！



長田君もニコニコ！次回は天気にも恵まれるといいですね！

マグロ3本・本かつお7本・シイラ2本の釣果。十分の釣果でした。長田君大満足！！台風が来ていなければもっと楽しめた釣りでした。

今年も企画しております。文章よりも写真を見ていただければ楽しさが伝わるとおもいます。

(釣りサークル幹事 大沼敬正)



待つ！藤沢白門会の太公望！！

《レディース会》

藤沢白門会には、女性会員が集うレディース会があります。残念ながら今年度は、会を開くことができませんでしたが、年に2、3回女性会員だけで集うことを続けてまいりました。

今までは、千葉景子様を中心として、世代を超え、またいろいろな業界で活躍している女性会員の方が一堂に会して、近況を報告し合い、懐かしいお話を伺うことで親睦を深めてまいりました。県下の他支部の女性会員の方々ととも友好を深めることもできました。

神田駿河台キャンパスの思い出、大学紛争時のこと、学部によっては女子学生が少なくいろいろなエピソードがあったことなど、同じ中央大学の卒業生であっても時代の移り変わりとともに、語り継いでいきたい貴重なお話を伺うことも楽しみの一つです。

また、1986年に男女雇用機会均等法が施行されてから早30年が過ぎました。その間、女性の社会進出が進み、中央大学出身の女性も各方面でめざましい活躍を遂げています。そうした中、藤沢白門会にレディース会があることは、大きな意味があることと考えています。職種や立場、卒業年が違うとはいえ、現代を生きる女性にとって、同じような悩みがあることと思います。安倍首相は、一億総活躍社会の実現の中で、「女性の輝く姿」に言明しています。しかしながら、女性にとって、結婚、出産、育児などの避けては通れない課題があることも事実です。そのような女性特有の課題をお互いに共有し、本音で語り合うもよし、また諸先輩方からお知恵を拝借することができるのもレディース会の意義ではないかと考えます。中央大学を卒業し、それぞれの道を歩んでいるところですが、同窓の誼を通して、お互いの活躍の場を広げていくことができるのも、よいことだと考えます。

最近では、平成生まれの女性会員の方も入会されています。今までは、お食事会を中心に会の運営を企画していましたが、これからは簡単なレクリエーションやよりアクティブな企画もあっていいのではないかと思います。ぜひ、若い会員の方の意見を参考にしたいと思いますので、たくさんのご意見をお待ちしています。今後の藤沢白門会の発展のためにも、来年度以降活発なレディース会の活動が行われますように、どうぞよろしく願いいたします。

(レディース会幹事 端山徳子)



《グラウンドゴルフ体験会》

グラウンドゴルフに親しんで

6月12日に第2回グラウンドゴルフを秋葉台公園園球技場で行いました。

天気は快晴とはいきませんでした。総勢7名が2班に分かれて3ゲームをプレイしました。

はじめての方も2名居りましたが、すぐにコツを飲み込まれて引けを取ることなく、楽しく行うことができました。

グラウンドゴルフは目標の穴が開いてないので、ボールが通り過ぎてしまい、ホールポストの輪の中に入れるのに苦労します。そこが面白いところです。

成績は次の通りです。

優勝 片岡さん
2位 川俣さん
3位 中谷さん でした。

帰りに近くのジョナサンで食事をして解散しました。

また用具一式採点表まで遠藤さんにお世話になりました。



このホールポストで静止すればホールイン

(グラウンドゴルフ体験会幹事 鉢舘 博)



グラウンドゴルフのルールはとてもシンプルです
皆様の気軽な参加をお待ちしております

◆◆母校の近況◆◆

初の試み～若手学员および女性学员対象の 白門ミーティング開催！

若手学员及び女性学员を中心とした白門ミーティングが、2017年11月11日（土）14時から新宿一京王プラザホテルにて開催されました。

白門ミーティングは、学员会本部が2014年から全国各地の支部（7ブロック）及び年時支部を対象に、本部・各支部との連携を密にして、支部における現状の課題、情報を共有し、本部や大学への要望を今後の学员会の運営に反映させる目的で開かれている。今回は今までの白門ミーティングを通じて培ってきた各支部との連携を踏まえて、さらなるネットワークの拡充・強化を図るため、全国支部の共通課題である「高齢化に対処するために若手学员と女性学员の入会促進の具体策」を大きなテーマとし、全国27支部から若手学员、女性学员47名が集った。

最初に基調講演として、ロイター編集局記者・宮崎亜巳氏（昭62年経済卒）が、「女性・若手学员の支部入会促進には何が必要か？並びに現在に中央大学への提言について」と題し、「地域との連携が大学活性化につながり、若手・女性の増員に注力する一方で、仕事や家庭でもある程度余裕のある50歳以上の年齢層が今後増えてくるため、50歳以上の方がこれまで以上に活躍していくことも考えなければならない」と語られた。

続く第一部の意見交換会では、「支部の活性化について」「若手、女性学员の活躍について」「支部高齢化対策について」の三つのテーマに分け、各支部学员の現状の活動の報告がなされ、各テーマについての質問、要望、意見等活発な議論となった。所属する支部の若手・女性学员の活躍、また逆に支部活動に参加できない原因や理由などの意見が飛び交った。学员から「現状の支部行事では若手や女性がなじめない」という本音の意見も多く、そのために同級生や女性を誘いづらい負の連鎖が起こっていることの現状。一方、「若手だけの会をつくり活動」「父母連絡会との連携」「役員の若返り」「スマホ対応のホームページづくり」「ビジネスに繋がる環境づくり」「連絡方法はSNS主体」「BBQなど気軽なイベントは参加しやすい」等の具体的な事例も紹介された。女性学员から「支部の中で、役割を与えられると参加しやすい」「家族や子供も参加出来るイベントが大切」といった声も聞かれた。

第二部は、お互いの親交を深め合う懇親会。久野会長の挨拶から始まり、瀬川副会長の乾杯でスタート、卒業年次の近い者同士が同じテーブルに着き、個々に自己紹介、支部の現状・問題点・改善点等グラスを交わしながら語り合い、出てくる料理に舌鼓していた。談笑が続く中、お開きの時間を迎え、室副会長の中締め、桜井幹事による校歌、エールで閉会。またの再会を約し、家路に向かう学员、ほろ酔いで次へくり出す学员もおり、終始和やかな雰囲気では会場を後にした。

（渉外委員 杉山 洋）

中央大学ビジネススクールは創立 10 周年を迎えました

〈CBS10 周年を迎えて〉

中央大学ビジネススクール（CBS）は今年で創立 10 周年をむかえます。これまで「戦略経営」をテーマに戦略的マインドをもったビジネス・リーダーを育成してきました。日本のビジネススクールとしては、最後発としてスタートしたわけですが、約 640 名ほどの MBA（経営修士）をもつビジネス・リーダーを産業界に送り出してきました。うれしいことに業界の社長や役員が次第に増えてきており、CBS の存在感が目につくようになったと思います。

もちろん、CBS10 年間の教育研究活動は CBS だけでやってこられたわけではありません。中央大学法人、学部、および中大の OB・OG である南甲倶楽部、CBS の修了生でつくる CBS クラブなど多くの方々のサポートがあつてのことであり、教職員一同感謝すると同時に、10 年間というのは中央大学 135 年の歴史からすると短いのですが、今後とも中大から多くのビジネス・リーダーを輩出すべく、精進してまいりたいと思います。

中央大学ビジネススクール 研究科長 中村 博

○ CBS の取り組み

* 南甲倶楽部と CBS

中央大学ビジネススクール（CBS）は、中央大学学会の経済人の組織である「南甲倶楽部」からの働きかけで 2008 年に設立されました。当時、南甲倶楽部会長であるとともに中央大学理事長に就任されていた鈴木敏文氏の「法曹界を始め各界に人材を送り出し、中央大学は高い評価を得ているが、経済界において活躍している人材も多く、ぜひビジネススクールを設立したらどうか。」という情熱が設立の大きなきっかけとなったものです。

さっそく設立準備室が設けられ、当時経済学部教授であった高橋宏幸、経済学教授で総合企画本部長であった小口好昭、総合政策学部教授の丹沢安治が集まって、「日本発の戦略経営」を標榜し、就業経験を前提にした社会人のための教育プログラムを開発しました。

設立から 10 周年を迎える今日まで、南甲倶楽部には継続してビジネススクール奨学金の原資となる寄付をしていただくとともに、春と秋の修了式には、優秀な成績を修めた学生への鈴木敏文賞、南甲倶楽部賞と副賞としての金時計を提供していただいています。

* メディアプロジェクトの活動紹介

CBS には、医師や薬剤師などの医療専門職をはじめ、医療系コンサルタント、製薬・医療機器メーカー勤務など、メディアに関わる人材が多数在籍、修了しています。また、業務にかかわらず、多くの方が医療を取り巻く問題に関心を寄せています。

CBS メディアプロジェクトでは、毎月 1 回医療に関連する学びの場として、オープンサロンを開催しています。ここでは、各自専門性を活かしたテーマを設定し、ディスカッションにより知識を深めていきます。議論は最新の業界情報はもとより、CBS の特徴である戦略・マーケティング・人的資源管理・法務・ファイナンスの視点で展開されています。毎回、積極的な意見交換により新たな気づきが得られ、業務・研究での課題発見にもつながっています。その他、ホームカミングデーではタイムリーなテーマの講座を開催しています。実務経験豊富な先生方・学生とともにアカデミックな視点で実務を考える機会は、ビジネススクールの醍醐味といえます。

*出張模擬講義について

CBS では、「CBS-MBA エッセンス」と題して企業に出向き出張模擬講義として実施しております。この企画は、広報の一環として実施しております。この企画は、広報の一環として専任教員が出向き、CBS で実際に行われている最先端の講義を、無料で社内で体験していただき、MBA 教育についての理解と必要性を実感してもらうとともに、専任教員が同行し、入試制度の説明や日程などをお知らせするものです。

例えば、2016 年 8 月に行われた、大手事務機器メーカーの販売会社では、6 月から同社人材成長支援室長の方と連絡を取りながら、社内での一斉メールでの周知、参加希望者の取りまとめをお願いしました。8 月 4 日までは、同社の従業員 21 名に対して、CBS 専任教員の佐藤博樹が「誤解の多いワーク・ライフ・バランス～働き方改革と管理職の役割が鍵～」と題して、事例を含めた講義、グループワーク、動画視聴を織り交ぜて 90 分間実施しました。

○ヒューマンネットワーク

* CBS のホームカミング

「ホームカミングデー (homecoming day)」は、本来、アメリカの高校・大学で年に一度の同窓会ということで広まってきたものですが、CBS では、中央大学として実施しているホームカミングデーとは別日程で実施しています。(土日の講義があるため、第 3 セメスターと第 4 セメスターの間である 11 月の第 3 土曜日に実施しています。そのため、ホームカミングデーとはいえ、補講など講義は実施されています。先生方、ビジネススクール事務室と同窓会組織である CBS 倶楽部 (主に修了生役員) で協力して企画から実施の準備まで行っています。

企画の内容は、先生方の基調講演、修了生や現役学生の知識のブラッシュアップや修了後の活躍についての報告の場としてのセッション等を企画し、CBS の修了生以外にも聴講できるようにしています。ビジネススクールのホームカミングデーとして発表の場を提供することで、「新たなきずき」、知識をブラッシュアップする機会としています。

また、仕事をしながら勉強するといった苦楽を共にした仲間との再会の時間や懇親化を提供しています。今後、この企画を継続していくことで CBS の持続可能性を明確にすることができると考えています。みなさん、ホームカミングデーでお会いしましょう。

(『ONE CHUO』2017 より抜粋)

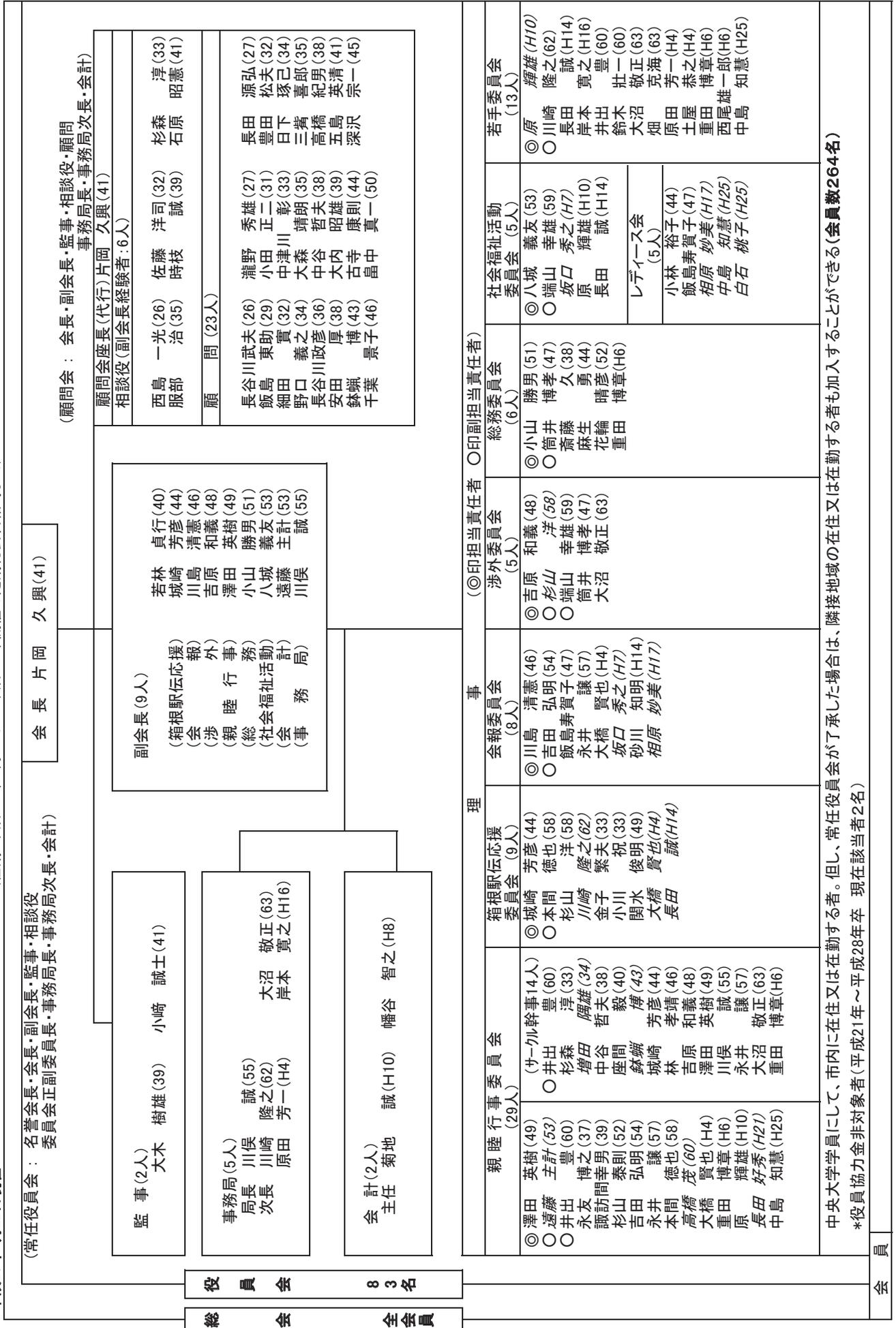
〈ONE CHUO〉 Team-chuo や ALL-chuo というフレーズを一つに統一。Chuo Vision2025 の実行に向け、中央大学にかかわるすべての方々の思いを一つに。さまざまな分野で 1 位を目指すという意気込み、中央大学は中央大学らしく、という 3 つの思いを込めています。

組 織 図

中央大学学員会藤沢白門会組織図

平成29年4月22日現在

(任期：平成29年4月22日～平成30年開催の定期総会最終時まで)



□新入会員（入会日順）～よろしくお願ひいたします□

平成 29 年

7 月 福浦 勝 様 平成 11 年 商学部卒

7 月 北口 勝敏 様 昭和 49 年 法学部卒

平成 30 年

1 月 ^{そおとめ}早乙女彰洋 様 平成 22 年 理工学部卒

1 月 細谷 幸夫 様 昭和 61 年 法学部卒



物故会員 謹んで哀悼の意を表します

平成 28 年

8 月 29 日 ご逝去 黒川 恒男 様 昭和 44 年 法学部卒

11 月 ご逝去 榛葉 敏行 様 昭和 24 年 経済学部卒

平成 29 年

4 月 3 日 ご逝去 山田 秀一 様 昭和 45 年 理工学部卒

5 月 7 日 ご逝去 一杉 経法 様 昭和 44 年 法学部卒

藤沢白門会讃歌（新曲）

中央大学学生会藤沢支部

作詞：服部 治

作曲：藤沢 健児

1 いま湘南に ひかり溢れて
前へ 集い会う
心豊かに 人生の季節を映し
意気を新たに 肩寄せて
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央
われら 藤沢白門会 ここに在り

2 この街に愛 響かせて広く
前へ 目を開き
心静かに ふるさとの山川思う
時は流れて 歳月を
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央
われら 藤沢白門会 ここに見る

4 あの松風も さわやかに吹く
前へ 友と手を
心昂めて 潮騒を遠くに聴けば
若き日近く 想い来る
讃えよう 中央 讃えよう 中央 中央
われら 藤沢白門会 ここに立つ

藤沢白門会讃歌

(いま湘南に)

作詞：服部 治

作曲：藤沢 健児

行進曲風に

(1) い ま

♩ - 80

しょう ー なん に ひか り あ ふ ー れ て ま え
 まち に あ い ひび か せ ひ ー ろ く ま え
 ま つ か ぜ も さ わ や か に ー ふ く ま え

へ つ ど い あ う こ ー こ ろ ゆ た か に
 へ め を ひ ら き こ ー こ ろ し ず か に
 へ と も と 手 を こ ー こ ろ た か め て

じん せい の き せ つ を う つ し い き を あ ら た に か た よ せ て た た
 ふ る さ と の や ま か わ お も う と き は な が れ て と し つ き を た た
 し お さ い を と お く に き け ば わ か き 日 ち か く お も い 来 る た た

え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ
 え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ
 え よ う 中 一 央 た た え よ う 中 一 央 中 央 わ れ

(1)・(2)
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ 一 こ 一 に あ り (2) こ の
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ 一 こ 一 に み る (3) あ の
 ら ふ じ さ わ は く も ん かい こ 一 こ 一 に 立

(3) *Fine*
 っ
rit

中央大学校歌

石川道雄 作詞
坂本良隆 作曲

一、草のみどりに風薫る
丘に目映き白門を

慕い集える若人が
真理の道にはげみつゝ、
栄ある歴史を承け伝う
ああ中央 我等が中央
中央の名よ光あれ

二、よしや嵐は荒ぶとも
揺がぬ意気ぞいや昂く

春の驕奢の花ならで
みのりの秋やめざすらむ
学びの園こそ豊かなれ
ああ中央 我等が中央
中央の名よ誉あれ

三、いざ起て友よ時は今
新しき世のあさぼらけ

胸に血潮の高鳴りや
湧く歌声も晴れやかに
自由の天地ぞ展けゆく
ああ中央 我等が中央
中央の名よ栄あれ

藤沢市の花



フジ

藤沢市の木



クロマツ

中央大学応援歌

あ、中央の若き日に

中央大学学生会連定
古閑祐西 作曲

一、憧れ高く空ひろく
理想の光あやなせる

あ、中央の若き日に
伝統誇る白門の
開い挑むはた仰げ
力、力、中央、中央

二、情熱と力の若人が
精鋭こそりふるいたつ

あ、中央の若き日に
雄叫ぶ血汐 紅は
闘魂たぎる火と燃える
力、力、中央、中央

三、我等が誇り覇者の歌
さんたり栄光我が生命

あ、中央の若き日に
今ぞ座らん覇者の座に
いざ勝どきを揚げんかな
力、力、中央、中央

惜別の歌

作詞 島崎藤村
作曲 藤江英輔

一、遠き別れに耐えかけて
この高樓たかねにのぼるかな

悲しむなかれわが友よ
旅の衣を整えよ

二、別れとといえば昔より
この人の世の常なるを

流るる水を眺むれば
夢はずかしき涙かな

三、君さやけき目の色も
君くれないの唇も

君がみどりの黒髪も
またいつか見んこの別れ

藤沢市の鳥



カワセミ

お 願 い

1 会費納入のお願い

会員各位におかれましては、日頃白門会活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

藤沢白門会は会員相互の親睦を深めるため、会員の皆様の積極的なご参加のもと、各種行事・催事を数多く開催いたしておりますが、この藤沢白門会の運営は、会員の皆様にご負担いただいております貴重な会費収入により支えられおり、今後も活動を継続していく上で、安定した会費収入は不可欠なものでございます。

ご失念のため未納付と思われる会員におかれましては、会員各位の会費により藤沢白門会の運営がなされていることをご理解のうえ、早急に納付していただきたくお願い申し上げます。なお、納付方法等につきましては、会計担当にご確認いただきたいと存じます。重ねてお願い申し上げます。

2 白門飛躍募金のお願い

会員各位におかれましては、既に学員時報等でご承知と存じますが、中央大学の中長期事業計画実現に向けて、『白門飛躍募金』のご案内がお手元に届けられていると思います。

藤沢白門会としましても、中央大学のさらなる発展に寄与すべく、会員各位に募金趣意書の趣旨をご理解いただき、寄付金のご協力を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

編集後記

今年度は、地球温暖化の所為か、世界的規模で異常気象を原因とした自然災害の被害が報道されております。

こうした環境のもと、地元の名勝「江の島」が台風により甚大な被害を受けましたが、藤沢白門会会員に大きな被害がなかったことに、また湘南という全国的にも風光明媚な恵まれた地域にあることに感謝したいと思います。

伝統の「箱根駅伝」では、予選会ならびに本選における往路の結果から、シード校入りを期待しておりましたが、復路で残念な結果となり、次回も予選会参加を余儀なくされました。藤沢白門会は横浜白門会をはじめ神奈川県下の各支部と同様、駅伝のコース内にあり、シード校として常在するように応援したいところであります。

神奈川県内においては、「相模原」「大和」に地域白門会が組織され、県下各白門会会員相互の「絆」がより強固なものとなり、中央大学そして藤沢白門会をはじめ、白門会各支部の益々の発展が期待されるところです。

本誌発行にあたり、原稿を投稿していただいた会員各位をはじめ、多大なご協力をいただきました幾多の方々に対し、末尾ながらこの場を借りて、心より御礼申し上げます。

(ポッキー)

発行・中央大学学会「藤沢白門会」

〒251-0032 藤沢市片瀬4-4-15

会長 片岡久興

(電話・FAX 0466-26-8402)

Web・<http://www.fujisawa-hakumonkai.jp>

編集・「藤沢白門会」会報委員会

発行日・平成30年3月10日



印刷・社会福祉法人 光友会

神奈川ワークショップ

〒252-0826 藤沢市瀬郷1008-1

(電話 0466-48-1503 FAX 0466-48-1504)